

2026（令和8）年度  
大学院シラバス  
博士後期課程

人間環境大学  
大学院 松山看護学研究科

Graduate School of Nursing at Matsuyama  
University of Human Environments



## 目次-博士後期課程-

科目区分	授業コード	授業科目の名称	配当年次	単位数		担当教員	記載ページ
				必修	選択		
共通科目(必修)	EDA0101	高度看護学研究特論D	1前	2		佐伯 由香	1
(共通科目 (選択))	EDB0101	人体機能生理学特論D	1通		2	佐伯 由香	3
	EDB0201	疼痛制御薬理学特論D ★	1通		2		
	EDB0301	ストレスコーピング特論D	1通		2	別宮 直子 中島 紀子	5
	EDB0401	世代継承性看護特論D ★	1通		2		
	EDB0501	実践・改革の地域包括ケアシステム論D	1通		2	西嶋 真理子	
看護実践開発領域	EDC0101	基盤看護学開発特論D	1前		2	中島 紀子	7
	EDC0102	基盤看護学開発特論D	1前		2	佐伯 由香	10
	EDC0201	基盤看護学開発特別演習D	1後		2	中島 紀子	11
	EDC0202	基盤看護学開発特別演習D	1後		2	佐伯 由香	13
	EDC0301	リプロダクティブヘルス看護学開発特論D	1前		2	高田 律美	15
	EDC0401	リプロダクティブヘルス看護学開発特別演習D	1後		2	高田 律美	18
	EDC0501	小児看護学開発特論D	1前		2	三並 めぐる	21
	EDC0502	小児看護学開発特論D	1前		2	羽藤 典子	23
	EDC0601	小児看護学開発特別演習D	1後		2	三並 めぐる	25
	EDC0602	小児看護学開発特別演習D	1後		2	羽藤 典子	27
	EDC0701	成人看護学開発特論D	1前		2		
	EDC0801	成人看護学開発特別演習D	1後		2		
	EDC0902	看護実践開発特別研究 I D	1通		2	佐伯 由香	29
	EDC0903	看護実践開発特別研究 I D	1通		2	三並 めぐる	31
	EDC0905	看護実践開発特別研究 I D	1通		2	高田 律美	33
	EDC1002	看護実践開発特別研究 II D	2通		2	佐伯 由香	35
	EDC1003	看護実践開発特別研究 II D	2通		2	三並 めぐる	36
	EDC1005	看護実践開発特別研究 II D	2通		2	高田 律美	38
	EDC1102	看護実践開発特別研究 III D	3通		2	佐伯 由香	40
	EDC1103	看護実践開発特別研究 III D	3通		2	三並 めぐる	40
	EDC1105	看護実践開発特別研究 III D	3通		2	高田 律美	42
地域包括ケア領域	EDD0101	地域包括高齢者看護学特論D	1前		2	赤松 公子	44
	EDD0102	地域包括高齢者看護学特論D	1前		2	岡 多枝子	46
	EDD0201	地域包括高齢者看護学特別演習D	1後		2	赤松 公子	49
	EDD0202	地域包括高齢者看護学特別演習D	1後		2	岡 多枝子	51
	EDD0301	地域包括精神看護学特論D	1前		2	別宮 直子	53
	EDD0401	地域包括精神看護学特別演習D	1後		2	別宮 直子	55
	EDD0501	地域包括在宅ケア特論D	1前		2	西嶋 真理子	
	EDD0601	地域包括在宅ケア特別演習D	1後		2	西嶋 真理子	
	EDD0701	地域包括ケア特別研究 I D	1通		2	岡 多枝子	57
	EDD0702	地域包括ケア特別研究 I D	1通		2	赤松 公子	59
	EDD0703	地域包括ケア特別研究 I D	1通		2	別宮 直子	61
	EDD0704	地域包括ケア特別研究 I D	1通		2	西嶋 真理子	
	EDD0801	地域包括ケア特別研究 II D	2通		2	岡 多枝子	63
	EDD0802	地域包括ケア特別研究 II D	2通		2	赤松 公子	65
	EDD0803	地域包括ケア特別研究 II D	2通		2	別宮 直子	67
	EDD0804	地域包括ケア特別研究 II D	2通		2	西嶋 真理子	
	EDD0901	地域包括ケア特別研究 III D	3通		2	岡 多枝子	69
	EDD0902	地域包括ケア特別研究 III D	3通		2	赤松 公子	71
	EDD0903	地域包括ケア特別研究 III D	3通		2	別宮 直子	73
EDD0904	地域包括ケア特別研究 III D	3通		2	西嶋 真理子		

★: 令和8年度不開講

授業コード	EDA0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	共通科目(必修) EDA01				研究教育力	○
授業科目名	高度看護学研究特論D	選択・必修	必修		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	佐伯由香					
授業の目的						
<p>本科目は、保健医療福祉分野で生起する看護現象に対して、看護学の学問的発展に貢献できる研究者として研究の「問い」や研究手法を学修するとともに、看護の専門性と学際性のある独創的・新規的な研究設計を行うことを目的とする科目である。自研究テーマの研究計画と、自己の研究の遂行と継続に必要な思考への示唆を得るための科目とする。各分野の教員自身の研究内容と方法、臨床と教育研究の往還的研究内容から幅広く研究に関する知識と方法、思考を学修する。</p>						
授業の概要						
<p>看護研究における博士論文の意義・社会的価値について学修する。看護研究と実践援助の往還的研究内容の重要性を概観し、博士論文の研究の「問い」について説明するとともに、研究の「問い」に対する研究手法の重要性を理解する。研究計画、及び研究倫理について、データ収集に着手するまでのプロセスと、具体的な研究の社会的価値等の論述方法について、自研究の展開から詳述する。データ収集から博士論文作成までのプロセスと研究倫理について、自研究プロセスなどから論述する。研究論文の公表について、計画的・戦略的に研究活動を遂行することの重要性について論述する。そのため(1)自研究計画の論旨、及び研究の意義と社会的価値の論述方法(2)研究倫理審査申請に必要な項目と書類の実際(3)自研究の博士論文の基本的構造と各章立ての意味(4)論文審査、及び論文公表のプロセスについて教授する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13:10-14:40)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	博士論文とは	博士論文とは 博士論文を書くということ ・ディスカッション	【事前】なぜ博士論文を書くのかについて自問する。【事後】博士論文作成の意義について考える	オリジナル資料配布		
2~4	研究の意義	看護の現象・事象の可視化 看護実践、研究、理論の関係性 研究の新規性、独創性、社会的価値 ・ディスカッション	【事前】修士課程教育の看護研究について振り返りしておく。【事後】看護研究の意義を再確認する。	オリジナル資料配布		
5~7	研究計画	研究設計 自研究計画の論旨、及び研究の意義と社会的価値の論述方法	自研究の課題と方向性を思い描いておく。事後は自己研究課題について省察する。	・オリジナル資料配布		
8~9	研究倫理に必要な項目	研究倫理審査申請に必要な項目と書類の実際	研究倫理について調べておく。先行研究の倫理的配慮のクリティーク。	・オリジナル資料配布		
10~12	論文の構成と章立て	自研究の博士論文の基本的構造と各章立ての意味	論文の構成について調べておく。先行研究の構成を確認する。	・オリジナル資料配布		
13~15	論文審査のプロセス	論文審査、及び論文公表のプロセスを教授する。	論文審査の視点を調べておく。本研究科の論文審査の頁を確認する	・オリジナル資料配布		
16	試験					
教科書・参考文献など						
<p>南 裕子、野嶋佐由美 編集：看護における研究 第2版、日本看護協会出版会、2017。 D.F. ポーリット他：看護研究、原理と方法、医学書院、2010. 10, 450円 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版：研究手法別のチェックシートで学ぶ、日本看護協会出版会、2020. 3, 520円</p>						
最終到達目標				評価方法		

<p>①必要な情報を収集・整理して、解決すべき研究課題が明確化できる  ②研究課題を解決するために、有効かつ適切な研究の「問い」を見極められて、「問い」に対する適切な研究手法を導き出すことができる③博士論文の基本的構造が理解できる④博士論文に求められる新規性・独創性・社会的価値について理解できる  ⑤看護研究における倫理的配慮について説明できる⑥自研究計画の論旨、及び研究の意義と社会的価値の論述方法⑦研究倫理審査申請に必要な項目と書類の実際⑧自研究の博士論文の基本的構造と各章立ての意味  ⑨論文審査、及び論文公表のプロセスについて理解できる</p>	<p>課題達成度を以下の方法で評価する  筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)</p>
---	---

**履修判定基準・評価基準**

<p>履修判定基準：  評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。  A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)  B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)  C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)  D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)  (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>
--

授業コード	EDB0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EDB01				研究教育力	○
授業科目名	人体機能生理学特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	佐伯由香					
<b>授業の目的</b>						
看護研究の実施にあたっては、日進月歩で進化している最新の医学情報にも精通しておく必要がある。この科目では、まず看護研究の基礎となる医学、特にヒトの身体の構造と機能をふりかえり、さまざまな疾患や治療とのつながりについてわかりやすく解説する。報道などで取り上げられる最新医療に関するトピックスも、十分理解出来るように基本的知識を更新する。						
<b>授業の概要</b>						
毎回配布する資料を参照しながら、複雑かつ精巧な人体の構造と機能を再度学修するとともに、現在研究が進んでいる免疫系と分子生物学についてわかりやすく解説する。また、これらの研究の成果で明らかになった疾患とそのメカニズムや分子標的薬といった治療面での応用についても解説する。医療が進む現在、以前は治療方法がなかった疾患が治るようになった反面、課題もみえてきている。これらも含めて現代医療の実情や問題点についてディスカッションする。評価は試験、課題レポート、各自のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加などにより行う。 (オフィスアワー：火曜日 10：50-12：20)						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	ヒトの身体の構造と機能	健常時のヒトの構造と機能	配付資料復習 関連文献参照	毎回配付資料		
2						
3						
4						
5	免疫機能とその異常	健常時の免疫機能と自己免疫疾患	配付資料復習 関連文献参照	毎回配付資料		
6						
7						
8						
9						
10	分子生物学の歴史と臨床	分子生物学の歴史と臨床	配付資料復習 関連文献参照	毎回配付資料		
11						
12						
13	社会で話題になっている医療	テーマに沿ってディスカッション	配付資料復習 関連文献参照	毎回配付資料		
14						
15						
16	試験					
<b>教科書・参考文献など</b>						
毎回、理解に必要な関連資料を配布する。						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
最新医療に関するキーワードについて、学部学生が理解出来るような解説文（400字程度）を書くことができる。				課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験（60%）・課題レポート（20%）・プレゼンテーション（20%）		
<b>評価基準・評価基準</b>						

履修判定指標：

評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDB0301			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EDB03				研究教育力	○
授業科目名	ストレスコーピング特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	別宮直子 中島紀子					
<b>授業の目的</b>						
<p>ストレス社会と言われる現在において、現在労働者の6割がストレスを感じており、メンタルヘルスの重要性が指摘されている。メンタルヘルスの対応として、セルフケアに加えてラインケアの重要性が示されているところである。本研究は、ストレスナー、及びストレスコーピング理論、ストレスコーピングの二つの戦略について学修し、問題解決力やレジリエンスを高めるためのセルフケアとラインケアの両側面から看護の対象者のメンタルヘルスを検討することを目的とする。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本科目はオムニバス方式／全15回であり、前半の8回（担当者：別宮）では、ストレスナーやストレス反応、心理学的ストレスモデルとストレスコーピング理論、二つのストレスコーピングについて学修し、その後発展を続ける多数のストレスコーピングに関連した心理尺度について先行文献を用い探究する。また、ストレスコーピングとセルフケア・セルフマネジメントについて、レジリエンスがもたらすコーピングへの影響と、レジリエンスへの影響因子とその強化にむけたセルフケアについて造詣を深める。</p> <p>後半の7回（担当者：中島）では、看護専門職におけるストレス要因やコーピング特性、ワークエンゲージメント、レジリエンスについて概説し、文献を用いてこれらの関連性について検討する。また、職場における連携や関係構築の必要性をセルフケアやラインケアの両側面から検討することで、ワークエンゲージメントの維持・向上に向けた社会的支援の必要性について探求する。</p> <p>（オフィスアワー：別宮：水曜日12:00-13:30 中島：木曜日12:00-13:30）</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	ストレスコーピングとは（別宮）	ストレスからストレスコーピングを概説し、また、授業スケジュールの調整および担当箇所を決定する。	ストレスやストレスコーピングの知識を再確認し、理解を深める。	ストレスの心理学、ストレスとストレスコーピング		
2	ストレスコーピングに関する研究傾向（別宮）	ストレスコーピングに関する研究の動向を調べ、プレゼンし、ディスカッションを行う。	ストレスコーピングに関する研究の動向について、文献調査を行う。	関連文献		
3						
4	ストレスコーピングの類型について（別宮）	各研究者のストレスコーピングの類型を比較検討し、プレゼンし、ディスカッションを行う。	各研究者のストレスコーピングの類型を文献調査し、比較する。	関連文献		
5						
6	ストレスコーピングに関連した心理尺度（別宮）	ストレスコーピングの心理尺度を調べ、その尺度の信頼性・妥当性について検討を行い、プレゼンし、ディスカッションを行う。	ストレスコーピングの心理尺度について、尺度の信頼性・妥当性について事前に文献調査を行う。	SCI、CISS、関連文献		
7	ストレスコーピングとセルフケア・セルフマネジメント（別宮）	ストレスコーピングとセルフケアやセルフマネジメントの関連を検討し、プレゼンし、ディスカッションを行う。	ストレスコーピングとセルフケアやセルフマネジメントの関連について文献調査を行う。	関連文献		
8	ストレスコーピングとレジリエンス（別宮）	ストレスコーピングとレジリエンスの関連を検討し、プレゼンし、ディスカッションを行う。	ストレスコーピングとレジリエンスの関連について文献調査を行う。	関連文献		
9	看護専門職におけるストレスコーピング（中島）	看護専門職におけるストレスコーピングに関する動向を調べ、プレゼンしディスカッションを行う。	看護専門職におけるストレスコーピングに関する研究の同行について事前に文献調査を行う。	関連文献		

10	ワークエンゲージメントとは (中島)	ワークエンゲージメントを概説し、関連する研究の動向を調べ、プレゼンしディスカッションを行う。	ワークエンゲージメントについて事前に文献調査を行う。	関連文献
11				
12	ラインケアとは (中島)	セルフケアとラインケアに関する研究の動向を調べ、プレゼンしディスカッションを行う。	ラインケアについて事前に文献調査を行う。	関連文献
13				
14	ワークエンゲージメントの必要性と社会的支援 (中島)	職場における連携や関係構築の必要性をセルフケアやラインケアの両側面から検討し、ディスカッションを行う。	セルフケアやラインケアの両側面からワークエンゲージメント向上に向けた取組みについて整理する。	関連文献
15				
16	試験			

**教科書・参考文献など**

1～8 回参考図書：①ストレスの心理学 [認知的評価と対処の研究]、リチャード・S・ラザルス、スーザン・フォルクマン著、本明寛他監修、(1994) 実務教育出版、②ストレスとストレスコーピング ラザルス理論への招待、富田正利、山本和郎編集協力、(2018) 星和書店

9～15 回参考図書：①ワークエンゲージメントー基本理論と研究のためのハンドブック アーノルド・B. バッカー (著)、(2014) 星和書店 ②ケアをすることの意味 病む人とともに在ることの心理学と医療人類学 アーサー・クラインマン (著)、(2015) 誠信書房 ③働き方改革時代の「ラインケア」下村洋一 (著)、(2017) フィスメック

最終到達目標	評価方法
ストレッサー、及びストレスコーピング理論、ストレスコーピングの二つの戦略について学修し、問題解決力やレジリエンスを高めるためのセルフケアとラインケアの両側面から看護の対象者のメンタルヘルスを検討することができる。	課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・

**履修判定指標・評価基準**

履修判定指標：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDC0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC01				研究教育力	○
授業科目名	基盤看護学開発特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	中島紀子					
<b>授業の目的</b>						
看護実践に関する基本的な概念や理論を学修し、看護の対象者にとって看護実践が科学的根拠を持つものであり、かつ健康回復においてより良い変化をもたらすものであることを認識し、看護実践の質向上のためのケア方法を探究することを目的とする。						
<b>授業の概要</b>						
<p>人間の活動性をADLやIADLと自己効力感、及びQOL（生活の質）の観点から教授研究する。ADLやIADLの概念、自己効力感の概念分析、QOLの臨床実践的意義について論究し、その人らしさの生き方について考察するとともに、生活支援学の理論的基礎について研究する。また臨床現場における看護職者のアサーティブ行動や人権意識は、患者の擁護者（アドボケート）として重要な役割をもつことを認識し、ケアの質向上のためのケア方法を検証する。</p> <p>看護実践の中から日常生活行動や感染対策に関する現象、あるいは日常業務における看護提供体体制やキャリア開発に関する研究の動向を国内外の文献を通して文献検索し、最新の知見を得る。さらに看護実践に関する科学的根拠に基づいたケア方法の探究のため、先行研究、および自研究手法などについて詳述する。自身の研究課題の明確化に向けて文献検討を重ね、エビデンスを構築することで研究構想に活用する。</p> <p>（オフィスアワー：木曜日 16:20-18:00）</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1～3	生活支援学としての看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアの本質</li> <li>・実践の科学としての看護学</li> <li>・看護学探究の方向性、方法、プロセス</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>		【事前】参考図書；ケアの本質を読んでおく。【事後】ケアの本質の中で新たな発見について再確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミルトンメイヤロフ、田村真、向野宣之訳：ケアの本質-生きることの意味、ゆみる出版、1996</li> <li>・オリジナル資料配布</li> </ul>	
4	日常生活における活動のアセスメント；ADL、IADL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ADLの概念</li> <li>・IADLの概念</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>		【事前】ADLの概念及びIADLの概念について調べ、レジюмеを作成し、講義時に発表する。【事後】看護研究におけるADL、IADLの意義について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土屋弘吉他編集：日常生活活動（動作）—評価と訓練の実際—、医歯薬出版株式会社、1996</li> <li>・五島雄一郎他監修：老人診療マニュアル、日本医師会雑誌、生涯教育シリーズ26</li> </ul>	
5	自己効力感の概念分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己効力感とは</li> <li>・効力予期と結果予期との関係</li> <li>・効力予期の主要な情報源</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>		【事前】自己効力感の概念、効力予期と結果予期、及び効力予期の情報源について調べ、レジюмеを作成し、講義時に発表する。【事後】看護研究における自己効力感の使われ方について理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梶田叡一著：自己意識心理学への招待—人とその理論—、有斐閣ブックス、1994</li> <li>・アルバートバンデューラ著、</li> </ul>	

				本明寛、野口京子監訳：激動社会の中の自己効力、金子書房、1997 ・坂野雄二・前田基成編著：セルフエフィカシーの臨床心理学
6	ネガティブケイパビリティの考え方①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネガティブケイパビリティとは</li> <li>・ネガティブケイパビリティとジョン・キーツ</li> <li>・ネガティブケイパビリティと医療</li> <li>・教育とネガティブケイパビリティ</li> <li>・共感に寄り添うネガティブケイパビリティ</li> <li>・ディスカッション・</li> </ul>	【事前】ネガティブケイパビリティについて著書を熟読し、レジюмеを作成する。講義時に発表してディスカッションをする。【事後】自身の研究課題としてどのように用いることができるか検討する。	・帚木蓬生著：ネガティブケイパビリティー答えの出ない事態に耐えるカー、朝日選書 958、2022
7~8	ネガティブケイパビリティの考え方②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネガティブケイパビリティに関する文献を講読し、自身の研究課題との関連性についてディスカッションする。</li> </ul>	【事前】ネガティブケイパビリティに関する文献を調べ、一覧表にしておく。その内容を講義で発表する。【事後】自身の研究課題にどのようなリサーチクエストとして設定できるか検討する。	・松永信夫著：ネガティブケイパビリティー「答えの出ない事態に耐える力」を読む、保健医療経営大学紀要、N09、90-96、2019
9	日常生活行動と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護における健康の概念</li> <li>・国内外の健康に関連する実態</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	【事前】看護における健康を熟読し、レジюмеを作成する。 【事後】国内外の健康に関する実態を整理する	適宜、文献や資料を配布する
10	感染症サーベイランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症サーベイランスに関連する学修と活用状況と課題</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	【事前】感染症サーベイランスについて調べ整理する。 【事後】感染症サーベイランスの現状と課題についてまとめる。	適宜、文献や資料を配布する
11	看護実践とスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護技術（スキル）；アセスメントスキル、コミュニケーションスキル、テクニカルスキル</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	【事前】看護技術（スキル）について調べ整理する。 【事後】自身の研究課題に用いることができるか検討する。	適宜、文献や資料を配布する
12	看護実践能力とクリティカルシンキング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護基礎教育における看護実践能力修得の現状と課題</li> <li>・クリティカルシンキングと看護実践</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	【事前】厚生労働省が位置づけた看護実践能力を調べる 【事後】看護実践能力とクリティカルシンキングについてまとめ、研究に活用できるか検討する。	適宜、文献や資料を配布する
13	看護師とアサーティブ行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アサーティブとは</li> <li>・看護場面におけるアサーティブコミュニケーション</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	【事前】アサーティブについて調べ整理する。 【事後】看護実践および研究に活用できるか検討する。	適宜文献や資料を配布する
14	看護提供体制と看護方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護提供体制と看護方式に関連する研究動向と課題の明確化</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	【事前】看護提供体制と看護方式に関連する文献を調べる 【事後】課題解決についてまとめる	適宜、文献や資料を配布する
15	キャリア開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続教育の現状と課題、キャリア開発に関連する研究動向</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	【事前】継続看護、キャリア開発に関連する文献検索 【事後】キャリア開発に関連する文献の整理	適宜、文献や資料を配布する
16	試験			

教科書・参考文献など	
適宜必要な資料を配布する	
最終到達目標	評価方法
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活支援学の理論的基礎を説明できる</li> <li>2. 人間の活動性、自己効力、ケイパビリティについて説明できる</li> <li>3. 健康の概念、感染症サーベイランスの実態、看護技術(スキル)、クリティカルシンキング、アサーティブコミュニケーション、看護提供方式と看護体制、キャリア開発について説明できる。</li> </ol>	課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)
履修判定基準・評価基準	
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) ( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )	

授業コード	EDC0102			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC01				研究教育力	○
授業科目名	基盤看護学開発特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	佐伯由香					
<b>授業の目的</b>						
ケア技術の科学的根拠の探求を実験的な手法によって解明するための研究方法論について探求する。また、看護実践の質向上のためのケア方法を探究することを目的とする。						
<b>授業の概要</b>						
看護実践の中から日常生活行動や感染対策に関する現象、あるいは日常業務における看護提供体体制やキャリア開発に関する研究の動向を国内外の文献を通して文献検索し、最新の知見を得る。さらに看護実践に関する科学的根拠に基づいたケア方法の探究のため、先行研究、および自研究手法などについて詳述する。自身の研究課題の明確化に向けて文献検討を重ね、エビデンスを構築することで研究構想に活用する。 (オフィスアワー：木曜日 16:20-18:00)						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1～3	清潔ケア	清潔ケアに関する先行研究とそのクリティーク、ディスカッション	学修課題について事前に調べてくる	・オリジナル資料配布		
4～6	痛みの緩和ケア	痛みの緩和ケアに関する先行研究とそのクリティーク、ディスカッション	学修課題について事前に調べてくる	・オリジナル資料配布		
7～9	便秘に対するケア	便秘に対するケアに関する先行研究とそのクリティーク、ディスカッション	学修課題について事前に調べてくる	・オリジナル資料配布		
10～12	補完代替療法	補完代替療法に関する先行研究とそのクリティーク、ディスカッション	学修課題について事前に調べてくる	・オリジナル資料配布		
13～15	科学的根拠のあるケア	提供されるケアの科学的根拠を探求する方法についてのディスカッションとプレゼンテーション	学修課題について事前に調べてくる	・オリジナル資料配布		
16	筆記試験					
<b>教科書・参考文献など</b>						
適宜必要な資料を配布する						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
1. ケアの科学的根拠を探求する方法論を説明できる。 2. 種々の場面で提供されるケアの科学的根拠を説明できる				課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験 (40%) ・ 課題レポート (20%) ・ ディスカッションへの参加 (20%) ・ プレゼンテーション (20%)		
<b>履修判定基準・評価基準</b>						
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)						

授業コード	EDC0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC02				研究教育力	○
授業科目名	基盤看護学開発特別演習D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	中島紀子					
授業の目的						
看護実践開発特論ID（基礎看護学）を踏まえ、自身の研究課題を明確化するために、臨床研究や看護研究から得ることのできる最新・最善の研究論文を講読するとともに、自身の研究の基盤となる概念枠組み（理論モデル）を創造・検討するために各種文献や理論・概念を考究し、研究に関する具体的アプローチ方法を追究する。						
授業の概要						
看護実践の中から日常生活行動や感染対策に関する臨床における現象や、日常看護活動における看護提供体制やキャリア開発に関する研究の動向を、国内外の文献を通して文献検索をし、最新の知見を得る。また日常生活援助技術に関する実験的研究と看護技術に活用できる看護モデルの構築に関する文献から、技術開発における研究的視点および研究方法について探求する。さらに、自身の研究課題の明確化に向けて文献検討を重ね、エビデンスを構築することで研究構想を行う。						
(オフィスアワー：木曜日 16:30-18:00)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1・2	オリエンテーション	科目の位置づけや目的、30コマの内容確認	【事前】これ前の実践や経験を振り返り課題になりうる事象を整理する。【事後】講義を踏まえ、課題を整理する。			
3～6	看護の実践現場（教育・管理・実践）から見た看護実践—看護研究—看護の理論化の問題・課題	学生が所属する専門領域の現状と課題の分析 研究ニーズの分析とケアプログラムの検討・改善方法 ディスカッション	【事前】自身の所属する看護の実践現場について研究的素材を考えておく。【事後】自身の研究課題を再確認し、研究可能かどうか等を検討しておく。	必要時資料配布		
7～10	研究の動向及び介入方法について	課題に関連する文献を精読し、看護実践との関連を整理する。	【事前】研究論文を読み、研究結果、考察、要約、実践へのサジェスション、英文サマリーについてクリティークし、自身の考えを持っておく。【事後】論文クリティークから理解したこと学習したことについて把握する。	必要時資料配布		
10	総括	学生各自の研究課題の一端を発表し、リサーチクエスションの検討、研究的アプローチの方法、ケアプログラムの開発やそのアウトカム評価方法等についてディスカッションする。	【事前】自身の研究課題に関して研究的アプローチをイメージ化する。【事後】自身の研究課題に関する概念モデルを考える。			
11～14	自己の課題に合わせた研究の動向	先行研究を選定し、自己の研究課題を踏まえた課題と対策を考察する。 プレゼンテーション、ディスカッション	文献検索、プレゼンテーション準備	適宜提示		

15 ～ 18	学会への参加（自己の研究課題に関する研究者間での意見交換）	研究課題に関連する学会に参加し、情報収集を行うとともに、自己の研究課題に関連する研究者との意見交換を行う。	学会抄録集を事前に読み、自己の研究課題に類似した研究者との意見交換ができるよう準備する。学会参加後は、自己の研究課題の再考を行う。	適宜提示
19 ～ 20	自己の研究課題の発展	自己の研究課題解決に向けた方策の検討	自己の研究課題の解決に向けた方策を検討する。意見交換で得られた情報を整理し、今後の研究に活かす。	適宜提示
21 ～ 24	学会への参加（自己の研究課題に関する研究者間での意見交換）	学術集会への参加 看護学領域における多様な知見の収集 ディスカッション	【事前】参加する学術学会の抄録集を読んでおく。自身の研究に関連する課題、および興味のあるテーマ等について予備知識を持つ。 【事後】自身の研究課題について再考する。	学会抄録集
25 ～ 26	学生自身の修士学位論文のクリティーク	修士学位論文で得た知識に関して再考する ディスカッション	【事前】修士学位論文を再読し、知見の発展的研究手法がどのようなものであるか考察する。 【事後】修士学位論文の知見を基盤にして、博士学位論文の課題、および研究方法等に関連するアイデアを検討する。	自身の修士学位論文
27 ～ 28	学生自身の博士学位論文の課題とリサーチクエスチョン	学生自身がイメージしている研究課題について、自由な意見交換を行う その課題は研究課題として意識のあるものか、実践可能か等についてディスカッションする。	【事前】自身の課題について先行研究を読んでおく。 【事後】ディスカッションから得られた研究構想を記述しておく。	文献提示
29 ～ 30	博士学位論文作成の研究ストラテジー	研究課題の確認のために関連する原著論文を講読する ディスカッション	【事前】特論、特別演習、特別研究へと知識を関連させ、博士学位論文の課題を抽出する。 【事後】研究課題の追求と、研究手法を記述しておく。	文献提示
教科書・参考文献など				
必要に応じて資料を配布する。				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生自身は、自身の研究課題に対する研究の進め方が理解できる。</li> <li>・自身の研究課題に対するリサーチクエスチョンを明らかにすることができる。</li> <li>・自身の研究課題に対する理論モデルを創造することができる。</li> <li>・自己の研究課題と課題解決に向けた対策について考察できる。</li> </ul>			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	
評価基準				
<p>評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>				

授業コード	EDC0202			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC02				研究教育力	○
授業科目名	基盤看護学開発特別演習D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	佐伯由香					
<b>授業の目的</b>						
看護実践開発特論ID（基礎看護学）を踏まえ、自身の研究課題を明確化するために、臨床研究や看護研究、医学研究から得ることのできる最新・最善の研究論文を講読するとともに、自身の研究の基盤となる概念枠組み（理論モデル）を創造・検討するために各種文献や理論・概念を考究し、研究に関する具体的アプローチ方法を追究する。						
<b>授業の概要</b>						
看護実践の中から日常生活行動や感染対策に関する臨床における現象や、日常看護活動における看護提供体制やキャリア開発に関する研究の動向を、国内外の文献を通して文献検索をし、最新の知見を得る。また日常生活援助技術に関する実験的研究と看護技術に活用できる看護モデルの構築に関する文献から、技術開発における研究的視点および研究方法について探求する。さらに、自身の研究課題の明確化に向けて文献検討を重ね、エビデンスを構築することで研究構想を行う。						
（オフィスアワー：木曜日 16:30-18:00）						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1・2	オリエンテーション	科目の位置づけや目的、30コマの内容確認		【事前】これ前の実践や経験を振り返り課題になりうる事象を整理する。【事後】講義を踏まえ、課題を整理する。		
3～6	看護の実践現場（教育・管理・実践）から見た看護の問題・課題	学生が所属する専門領域の現状と課題の分析 ディスカッション		【事前】自身の所属する看護の実践現場について研究的素材を考えておく。【事後】自身の研究課題を再確認し、研究可能かどうか等を検討しておく。	必要時資料配布	
7～10	研究の動向及び介入方法について	課題に関連する文献を精読し、看護実践との関連を整理する。		【事前】研究論文を読み、研究結果、考察、要約、実践へのサジェスション、英文サマリーについてクリティークし、自身の考えを持っておく。【事後】論文クリティークから理解したこと学習したことについて把握する。	必要時資料配布	
10	総括	学生各自の研究課題の一端を発表し、リサーチクエスションの検討、研究的アプローチの方法、ケアプログラムの開発やそのアウトカム評価方法等についてディスカッションする。		【事前】自身の研究課題に関して研究的アプローチをイメージ化する。【事後】自身の研究課題に関する概念モデルを考える。		
11～14	自己の課題に合わせた研究の動向	先行研究を選定し、自己の研究課題を踏まえた課題と対策を考察する。 プレゼンテーション、ディスカッション		文献検索、プレゼンテーション準備	適宜提示	

15 ～ 18	学会への参加（自己の研究課題に関する研究者間での意見交換）	研究課題に関連する学会に参加し、情報収集を行うとともに、自己の研究課題に関連する研究者との意見交換を行う。	学会抄録集を事前に読み、自己の研究課題に類似した研究者との意見交換ができるよう準備する。学会参加後は、自己の研究課題の再考を行う。	適宜提示
19 ～ 20	自己の研究課題の発展	自己の研究課題解決に向けた方策の検討	自己の研究課題の解決に向けた方策を検討する。意見交換で得られた情報を整理し、今後の研究に活かす。	適宜提示
21 ～ 24	学会への参加（自己の研究課題に関する研究者間での意見交換）	学術集会への参加 看護学領域における多様な知見の収集 ディスカッション	【事前】参加する学術学会の抄録集を読んでおく。自身の研究に関連する課題、および興味のあるテーマ等について予備知識を持つ。 【事後】自身の研究課題について再考する。	学会抄録集
25 ～ 26	学生自身の修士学位論文のクリティーク	修士学位論文で得た知識に関して再考する ディスカッション	【事前】修士学位論文を再読し、知見の発展的研究手法がどのようなものであるか考察する。 【事後】修士学位論文の知見を基盤にして、博士学位論文の課題、および研究方法等に関連するアイデアを検討する。	自身の修士学位論文
27 ～ 28	学生自身の博士学位論文の課題とリサーチクエスチョン	学生自身がイメージしている研究課題について、自由な意見交換を行う その課題は研究課題として意識のあるものか、実践可能か等についてディスカッションする。	【事前】自身の課題について先行研究を読んでおく。 【事後】ディスカッションから得られた研究構想を記述しておく。	文献提示
29 ～ 30	博士学位論文作成の研究ストラテジー	研究課題の確認のために関連する原著論文を講読する ディスカッション	【事前】特論、特別演習、特別研究へと知識を関連させ、博士学位論文の課題を抽出する。 【事後】研究課題の追求と、研究手法を記述しておく。	文献提示
31	筆記試験			
教科書・参考文献など				
必要に応じて資料を配布する。				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生自身は、自身の研究課題に対する研究の進め方が理解できる。</li> <li>・自身の研究課題に対するリサーチクエスチョンを明らかにすることができる。</li> <li>・自身の研究課題に対する理論モデルを創造することができる。</li> <li>・自己の研究課題と課題解決に向けた対策について考察できる。</li> </ul>			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	
評価基準				
<p>評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>				

授業コード	EDC0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC03				教育・実践力	○
授業科目名	リプロダクティブヘルス看護学 開発特論D	選択・必修	選択		倫理調整力	○
学年/学期	1年/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	高田律美				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、リプロダクティブヘルス・ライツに関する理論を基盤とし、マタニティヘルス、ウイメンズヘルス等女性のライフサイクル各時期に必要な健康課題、またそれらに伴う家族形成に関わる課題を明確にし、看護実践に基づきサーチ・クエスチョンから独自の概念枠組みを構築するための準備として各看護理論を学修することを目的とする。概念モデルの作成等理論構築をするための研究手法の前提とし、EBP、システムティックレビュー、研究方法論を探究することを目的とする。</p>						
<p>周産期の健康・倫理的課題に関する概念分析をおこなう。周産期看護学領域における国内外の研究論文を、EBP、システムティックレビュー、研究方法論を通して看護実践を開発する。また、リプロダクティブヘルス・ライツについてグローバルな視点で、女性とパートナー、家族を含む生涯発達理論を基盤とし、マタニティヘルス、ウイメンズヘルス、等女性のライフサイクル各時期に必要な健康課題、またそれらに伴う家族形成に関わる課題を明確にする。また、ヘルスプロモーションに関連する各理論を検証する。そのうえで、講義内容に関するテーマについてEBP、システムティックレビュー、研究方法を文献に基づいた各自の学修を発表し、ディスカッションを通して、さらに多角的な視点で課題を追究する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13:20-14:50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。リプロダクティブヘルス/ライツの基本理念と歴史の変遷	リプロダクティブヘルス/ライツのとの基本理念と歴史の変遷知識についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	リプロダクティブヘルス/ライツについて、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学 リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス		
2	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
3	ジェンダー・家族についての社会的課題（LGBTQを含む）	ジェンダー・家族についての社会的課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	ジェンダー・家族についての社会的課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	岩間暁子他 問からは始める社会学、		
4	課題の探求①	①-③の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマについてレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。			
5	健康行動理論	健康行動理論について講義とグループディスカッション実施。	健康行動理論に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	健康行動理論による研究と実践		
6	研究と理論：移行期理論	移行期理論について講義とグループディスカッション実施。	移行期理論に関連する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	移行理論と看護—実践, 研究, 教育—		

7	ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションについて講義とグループディスカッション実施。	ヘルスプロモーションに関連する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	ナッジ×ヘルスリテラシー—ヘルスプロモーションの新たな潮流、
8	課題の探求②	⑤-⑦の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマについてレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	事前学習：各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。	
9	愛着形成理論①	愛着形成に関連する課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	愛着形成に関連する課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	母子関係の理論(1)
10	愛着形成理論②	愛着形成に関連する課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	愛着形成に関連する課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	母子関係の理論(2)
11	愛着形成理論③	愛着形成に関連する課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	愛着形成に関連する課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	母子関係の理論(3)
12	課題の探求③	⑨-⑪の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマについてレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	事前学習：各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。	
13	プレコンセプションケアに関連するガイドライン	プレコンセプションケアに関連するガイドラインの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	マタニティヘルスに関連するガイドラインの課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	妊娠高血圧症候群ガイドライン2021
14	プレコンセプションケアに関連する理論	プレコンセプションケアの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	プレコンセプションケアの課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	国立成育医療研究センター 新産科実践ガイド、家族看護学：家族のエンパワーメントを支えるケア
15	課題の探求④	⑬-⑭の授業に関する課題に関連した各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする	事前学習：各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。	

教科書・参考文献など

参考文献

\* 女性生涯看護学 吉沢豊予子 真興交易(株)医学出版部(2004)、\* 問からはじめる社会学、岩間暁子他、有斐閣(2015)、\* リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス、信山社、谷口真由美(2007)、\* 移行理論と看護—実践、研究、教育—、アフアフ イブラヒム メレイス 監修、学研(2019)、\* ナッジ×ヘルスリテラシー—ヘルスプロモーションの新たな潮流、村山洋史、大修館書店(2022)、\* 家族看護学：家族のエンパワーメントを支えるケア、中野 綾美ら、メディカ出版(2020)、\* Meleis, A. I. (2010). Transitions Theory: Middle-range and situation-specific theories in nursing research and practice. New York: Springer Publishing Company. \* Bowlby, J. (1969). Attachment and Loss: Vol. 1, Attachment (Vol. 1). New York: Basic Books. (黒田実郎, 岡田洋子, 吉田恒子訳, 母子関係の理論(1)愛着行動, 岩崎学術出版社, 1976) \* Bowlby, J. (1973). Attachment and Loss: Vol. 2, Separation. New York: Basic Books. (黒田実郎, 岡田洋子, 吉田恒子訳, 母子関係の理論(2)分離不安, 岩崎学術出版社, 1977) \* Bowlby, J. (1980). Attachment and Loss: Vol. 3, Sadness and Depression. New York: Basic Books. (黒田実郎, 吉田恒子, 横浜惠三子訳, 母子関係の理論(3)対象喪失, 岩崎学術出版社, 1981) \* Rubin, R. (1984). Maternal Identity and the Maternal Experience. New York: Springer. (新道幸恵, 後藤桂子訳, 母性論:母性の主観的体験, 医学書院, 1997) \* 国立成育医療研究センター 新産科実践ガイド、診断と治療社、左合 治彦(2021)

最終到達目標	評価方法
<p>1. リプロダクティブヘルスとの基本理念と歴史的変遷とグローバルヘルスの視点でリプロダクティブヘルスの課題を取り上げ、その内容についてプレゼンテーションし、説明することができる。</p> <p>2. 妊婦とその家族が不安なく快適で健康な妊娠生活を送り、親となる準備や新しい家族を迎える準備が整うよう支援する内容をプレゼンテーションし、説明することができる。</p> <p>3. 健康行動理論、移行期理論、ヘルスプロモーション、愛着形成理論、に関する文献をプレゼンテーションし、説明することができる。</p> <p>4. プレコンセプションケアや現代の母子保健とその家族の健康課題について、関連する最新の知識・技術に関するエビデンスの獲得について取り上げ、その内容及び、課題解決のための文献についてプレゼンテーションし、説明できる。</p>	<p>課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験 (60%) ・ 課題レポート (20%) ・ プレゼンテーション (20%) ・</p>
履修判定指標・評価基準	
<p>履修判定指標：</p> <p>評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	

授業コード	EDC0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC04				教育・実践力	○
授業科目名	リプロダクティブヘルス看護学 開発特別演習D	選択・必修	選択		倫理調整力	○
学年/学期	1年/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	高田律美				提言力	○
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、現代家族を視野に入れ、母子や家族の健康問題の解決に向けて、実践的なリプロダクティブヘルスケアの構築につながる研究成果から、リプロダクティブヘルス/ライツ、マタニティヘルス、ウイメンズヘルス、等女性のライフサイクル各時期に必要な健康課題、またそれらに伴う家族形成に関わる課題を明確にし、看護実践開発研究における課題探求や研究計画に基づき、関心がある、研究テーマに関してフィールドワークなど調査方法を探求することを目的とする。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>演習の内容については、(周産期の健康課題について、EBP、システマティック・レビュー、国内外の研究の知見を交え、研究テーマを明確化し、適切な研究方法を用い、フィールドワーク等の調査方法を検証する。さらに、リプロダクティブヘルス・ライツを基盤とし、女性とパートナーのライフサイクル各期の健康課題について、ヘルスプロモーションに関連するアプローチについてフィールドワークを実施し、検証をする。そのうえで、講義内容に関するテーマについてEBP、システマティック・レビュー、研究方法を文献に基づいた各自の学修を発表し、ディスカッションを通して、さらに多角的な視点で課題を追究し、自己のフィールドワークなど調査方法を検討する。</p> <p>オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。 研究と理論①	演習の進め方についてオリエンテーションを行う。 各自が論文作成の際に採用する理論についてグループディスカッション実施。	健康行動理論に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	健康行動理論による研究と実践		
2-4	研究と理論②： 理論と研究と実践	健康行動理論の研究と実践について講義とグループディスカッション実施。	健康行動理論の研究と実践に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	健康行動理論による研究と実践		
5-8	論文クリティークの方法	クリティークとは何かについて概説する。	事前に該当図書を熟読する。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版		
9	論文クリティークの方法と実際①	質的研究における文献クリティークに関する講義をする。第7回目の授業後に検索した論文についてクリティークを展開する。	事前に該当図書を熟読する。各自の論文についてクリティークの実際を展開してくる。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版		
10-12	論文クリティークの方法と実際②	尺度開発研究における文献クリティークに関する講義をする。第8回目の授業後に検索した論文についてクリティークを展開する。	事前に該当図書を熟読する。各自の論文についてクリティークの実際を展開してくる。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版		
13-15	論文クリティークの方法と実際③	システマティックレビューにおける文献クリティークに関する講義をする。第7回目の授業後に検索した論文についてクリティークを展開する。	事前に該当図書を熟読する。各自のシステマティックレビュー論文を検索してクリティークの実際を展開してくる。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版		

16、 17	ウイメンズヘル ス・マタニティ ヘルス・リプロ ダクティブヘル ス・ライツに関 連する論文のク リティーク	各自の研究テーマに関連する論文 のクリティークした結果について プレゼンテーションを実施する。	各自の研究テーマに関連する論文 のクリティークした結果をプレゼ ンテーションできる準備をして臨 む。	
18、 19	研究方法：量的 研究（尺度開 発）	尺度開発について講義とループデ スカッション実施。	尺度開発に関する文献を熟読す る。その内容についてグループデ ィスカッションに臨める準備をす る。事後は関心あるテーマにつ いて尺度開発の研究方法を用いて いる原著論文を検索し熟読して おく。	質問紙調査と心 理測定尺度計画 から実施・解析 まで
20、 21	研究方法：アク ションリサーチ	アクションリサーチについて講義 とループデスカッション実施。	アクションリサーチに関する文献 を熟読する。その内容についてグ ループディスカッションに臨める 準備をする。事後は関心あるテ ーマについてアクションリサーチの 研究方法を用いている論文を検索 しておく。	アクションリサ ーチ - 看護研究 の新たなステー ジへ
22	課題の探求	⑨-⑲の授業に関する課題に関連 した各自の興味あるテーマのレジ メを使用してプレゼンテーション しその後ディスカッションを実施	各自が自分の興味あるテーマで プレゼンテーションを実施し、その 後ディスカッションを行える準備 をして臨む。	
23	研究テーマに沿 ったシステムテ ィックレビュー （メタアナリシ ス）①	研究テーマに沿ったシステムテ ィックレビュー（メタアナリシス） ク。研究課題の設定と文献検索の 結果を発表し、ディスカッション する。	事前に研究課題の設定と文献検索 しプレゼンテーションの準備をす る。事後はさらに検索結果をまと める。	看護研究のための 文献レビュー—マ トリックス方式、 エビデンスに基づ く看護実践のため のシステムティッ クレビュー
24、 25	研究テーマに沿 ったシステムテ ィックレビュー （メタアナリシ ス）②	研究テーマに沿ったシステムテ ィックレビュー（メタアナリシス） ク。文献検索とスクリーニング の。結果の整理したものを発表 し、ディスカッションする。	事前に文献検索とスクリーニング の結果を整理しプレゼンテーショ ンの準備をする。事後はさらに献 検とスクリーニングの結果を整理 する。	看護研究のための 文献レビュー—マ トリックス方式、 エビデンスに基づ く看護実践のため のシステムティッ クレビュー
26	研究テーマに沿 ったシステムテ ィックレビュー （メタアナリシ ス）③	研究テーマに沿ったシステムテ ィックレビュー（メタアナリシス） ク。文献検索とスクリーニング の。結果の整理し統合したものを 発表し、ディスカッションする。	事前に文献検索とスクリーニング の結果を整理し統合したもののプ レゼンテーションの準備をする。 事後は授業で検討された内容を追 加修正する。	看護研究のための 文献レビュー—マ トリックス方式、 エビデンスに基づ く看護実践のため のシステムティッ クレビュー
27、 28	研究テーマに沿 ったシステムテ ィックレビュー （メタアナリシ ス）④	研究テーマに沿ったシステムテ ィックレビュー（メタアナリシス） ク。文献検索とスクリーニング の。結果の整理しさらに出版バイ アスの評価を実施する。さらに、 サブグループ解析と感度分析が必 要な時には実施する。それらを発 表し、ディスカッションする。	事前に文献検索とスクリーニング の。結果の整理しさらに出版バイ アスの評価を実施する。さらに、 サブグループ解析と感度分析が必 要な時には実施し発表の準備をす る。事後は授業で検討された内容 を追加修正する。	看護研究のため の文献レビュー— マトリックス 方式、エビデン スに基づく看護 実践のため のシ ステ マ テ ィ ッ ク レ ビ ュ ー

29、 30	研究テーマに沿ったシステムティックレビュー（メタアナリシス）の結果のまとめ	各自の研究テーマに関連する論文研究テーマに沿ったシステムティックレビュー（メタアナリシス）のクリティークした結果をまとめ、それらを発表し、ディスカッションする。	各自の研究テーマに関連するシステムティックレビューをまとめ、プレゼンテーションの準備をして臨む。事後は授業で検討された内容を追加修正する。	
<b>教科書・参考文献など</b>				
<b>参考文献</b> *健康行動理論による研究と実践、日本健康教育学会、医学書院（2019）、*ナッジ×ヘルスリテラシー—ヘルスプロモーションの新たな潮流、村山洋史、大修館書店（2022）、*ヘルスプロモーション 健康科学 和田雅史ら、聖学院大学出版（2016）、*移行理論と看護—実践、研究、教育—、アフアフ イブラヒム メレイス 監修、学研（2019）*質的研究法：その理論と方法 健康・社会科学分野における展開と展望、プランニー・リアムブットーン 著、メディカル・サイエンス・インターナショナル（2022）*質問紙調査と心理測定尺度計画から実施・解析まで、宇井美代子ら著、サイエンス社（2014）*アクションリサーチ入門 - 看護研究の新たなステージへ、筒井真優美ら著、ライフサポート社、（2010）*よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版 牧本清子ら編著、日本看護協会（2020）、*看護研究のための文献レビュー—マトリックス方式、ジュディス ガラード著、医学書院（2012）、*初めの一步 メタアナリシス—“Review Manager”ガイド、平林由広、克誠堂出版（2014）、*エビデンスに基づく看護実践のためのシステムティックレビュー、牧本清子（2013）				
<b>最終到達目標</b>			<b>評価方法</b>	
1. 研究論文のテーマに関連する理論や概念について文献を用いてプレゼンテーションし、説明することができる。 2. 論文をクリティークすることで文献検討を通して、未だ解決されていない看護現象を自己の研究課題として明確化できる。さらに自己の課題にアプローチするための方法論を吟味し、妥当性、信頼性、実現可能性を検討する。 3. 各自の興味あるテーマについて文献のシステムティックレビューをして、ウイメンズヘルス・マタニティヘルス・リプロダクティブヘルス/ライツに関連するテーマについて文献をクリティークし、その内容についてプレゼンテーションし、ディスカッションすることができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験（60%）・課題レポート（20%）・プレゼンテーション（20%）	
<b>履修判定指標・評価基準</b>				
<b>履修判定指標：</b> <b>評価基準：</b> 評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC05				研究教育力	○
授業科目名	小児看護学開発特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	三並 めぐる					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、保健・医療・福祉・教育分野で生起する看護現象に対して、小児看護学の学問的發展に寄与する研究者として、研究の「問い」を起点に理論と実践を往還しながら、獨創性および新規性のある研究課題を創出する能力を養うことを目的とする。</p> <p>そのために、小児看護学に関連する多様な理論枠組み（発達理論、家族看護理論、Family-Centered Care、Shared Decision Making (SDM) 等）を基盤として、国内外の研究動向および国際的視点を踏まえた批判的検討を行うとともに、質的・量的研究方法論の理解を深める。</p> <p>さらに、教員の研究および臨床・教育実践との往還的検討を通して、研究に必要な知識・方法・思考を統合的に修得し、自らの研究課題の明確化と研究計画の基盤構築につなげることを目的とする。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本授業では、日本および世界における小児医療・小児看護の現状と課題について概観するとともに、小児看護学における理論的基盤の活用について探究する。主として、愛着理論 (Bowlby)、認知発達理論 (Piaget)、ライフコース理論 (Elder)、生涯発達理論 (Jung, Erikson, Levinson, Super)、キャリア発達理論 (Parsons, Holland, Ginzberg, Schein) および家族看護理論 (家族発達理論、家族システム理論) 等を取り上げ、臨床事例との往還を通して理論の実践的適用を検討する。</p> <p>さらに、小児と家族のアセスメントおよびセルフケア支援に関する先駆的取り組み、小児救急医療体制、小児の養育環境、多職種連携、児童虐待の予防と対応について、多角的かつ国際比較の視点から分析する。</p> <p>授業は、文献クリティーク、プレゼンテーションおよびディスカッションを中心に展開し、質的・量的研究方法論も踏まえながら、理論・実践・研究の統合的理解を深める。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：10-14：40)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	日本と世界の小児医療事情と小児看護の現状	日本と世界における小児医療および小児看護の現状と課題についてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。	【事前】テーマについてスライド4~8枚作成と発表準備を行う 【事後】学修内容を400字程度で振り返り、課題を整理する	学生が書籍や文献等で資料作成		
2	小児看護における研究課題の探索	小児看護学における研究動向を踏まえ、研究の問いの設定について検討しディスカッションを行う	【事前】自身の研究関心を整理しスライド作成【事後】研究課題案を800字程度でまとめる	学愛着障害は何歳からでも必ず修復できる。学生が書籍や文献等で資料作成		
3	愛着理論・認知発達理論	愛着理論 (Bowlby)、認知発達理論 (Piaget) について発表し、臨床への応用を検討する	【事前】理論に関する文献読解と資料作成【事後】理論と実践の関連について400字で整理	発達理論関連文献、レビュー論文		
4	ライフコース理論	ライフコース理論 (Elder) について検討し、小児期からの健康課題との関連を分析する	【事前】文献読解と資料作成【事後】理論の応用について整理	ライフコース理論関連文献		
5	生涯発達理論	生涯発達理論 (Jung, Erikson, Levinson, Super) について統合的に理解し討議する	【事前】理論比較の整理【事後】臨床応用について整理	発達心理学関連文献		
6	キャリア発達理論	キャリア発達理論 (Parsons, Holland, Ginzberg, Schein) について検討する	事前) 文献読解・資料作成【事後】看護および家族支援への応用を整理	キャリア発達理論文献		
7	家族看護理論とFamily-Centered	家族看護理論およびFamily-Centered Careの概念を検討し、	【事前】理論整理と資料作成【事後】家族支援の視点から考察	家族看護学文献、FCC関連論文		

	Care	臨床への適用を議論する		
8	プレコンセプションケア	プレコンセプションケアの概念および国際的動向を踏まえ、小児看護との関連を検討する	【事前】WHO 資料の読解【事後】日本への応用可能性を整理	WHO 資料、母子保健関連論文
9	国際セクシュアリティ教育 (ITGSE)	国際セクシュアリティ教育ガイドランス (ITGSE) の内容を分析し、日本との比較を行う	【事前】ITGSE 読解・資料作成【事後】課題整理	ITGSE、関連論文
10	無煙環境と小児の健康	受動喫煙および健康格差の課題について政策的視点から検討する	【事前】関連論文読解【事後】介入の可能性を整理	WHO タバコ対策資料、疫学研究
11	小児救急医療体制と小児救急看護	小児救急医療体制と小児救急看護の現状と課題について検討する	【事前】資料作成【事後】課題整理	小児救急医療関連文献
12	家族の養育環境と子どものレジリエンス	養育態度が子どもの発達やレジリエンスに与える影響を検討する	【事前】文献読解【事後】理論との関連整理	家族研究・レジリエンス研究
13	質的研究方法論	質的研究 (Kj 法、内容分析等) の理論と方法について学修する	【事前】質的研究論文読解【事後】研究デザインの整理	質的研究法テキスト
14	量的研究方法論	疫学研究および介入研究の基礎を理解し研究方法を検討する	【事前】量的研究論文読解【事後】研究デザインの整理	疫学・看護研究法文献
15	研究課題の構築と発表	研究課題および研究計画の発表と相互評価を行う	【事前】研究計画の作成【事後】最終修正	各自の研究関連文献
16	最終レポート			
教科書・参考文献など				
1. 米澤好史著：愛着障害は何歳からでも必ず修復できる (2022)				
2.				
最終到達目標			評価方法	
<p>小児看護学に関連する諸理論（発達理論、家族看護理論、FCC、SDM 等）を用いて、看護現象を批判的に分析・説明できる。</p> <p>日本および国際的な小児医療・小児看護の現状と課題について、比較の視点から論述できる。</p> <p>小児と家族のアセスメント、セルフケア支援、多職種連携、児童虐待対応等の実践課題を、理論と関連づけて検討できる。</p> <p>国内外の研究論文を批判的に読解し、研究動向および課題を整理・発表し、学術的ディスカッションを展開できる。</p> <p>質的・量的研究方法論の基礎を踏まえ、小児看護学領域における独創性・新規性のある研究課題を設定できる。</p> <p>自らの研究課題に基づき、理論的枠組みを明確にした研究計画の骨子を構築できる。</p>			<p>課題達成度を以下の方法で評価する</p> <p>毎回の課題スライド (60%)・プレゼンテーション (20%)・最終課題レポート (20%)</p>	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準：				
評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。				
A (100～80 点)：到達目標を達成している (Very Good)				
B (79～70 点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC0502			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目				研究教育力	○
授業科目名	小児看護学開発特論D	選択・必須	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	羽藤 典子					
授業の目的						
<p>本授業は、日本と諸外国における小児医療および小児看護の現状を比較・分析し、日本の小児医療が抱える課題を多角的かつ批判的に検討する能力を養うことを目的とする。さらに、先行研究の精読およびディスカッションを通して、在宅医療、レスパイトケア、医療的ケア児への支援、小児救急、育児支援、児童虐待予防などの領域における理論と実践の関連性を理解する。加えて、小児と家族への包括的支援および多職種連携の在り方について研究的視座から探究し、実践に還元可能な課題設定力および課題解決能力の涵養を図る。</p>						
授業の概要						
<p>本特論では、日本と諸外国における小児医療および小児看護の動向を国際比較の視点から批判的に検討し、日本の小児医療が抱える構造的課題について理論的・実証的に探究する。とくに、在宅医療、医療的ケア児への包括的支援（ケア・コーディネーション）、小児救急医療体制、育児支援、児童虐待予防などの主要テーマについて、最新の先行研究を精読し、その方法論および知見の妥当性を検証する。</p> <p>さらに、判別分析を用いた若年女性の冷え症に関する研究や、学童期・思春期女性の健康課題、小児在宅医療体制に関する研究を題材として、量的研究手法および研究デザインの理解を深化させる。授業は文献の精読・批判的討議・研究発表を中心に展開し、受講者が各自の研究テーマに関連づけて課題を再構成し、独自の研究課題を発展させることを目指す。（オフィスアワー：羽藤：月曜日 17:00～18:00）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	授業の目的と進め方の共有／各自の研究テーマの提示と課題の明確化	教員による導入講義、受講者による研究テーマのプレゼンテーションと討議	【事前】自身の研究テーマは、小児医療・看護のどの課題に位置づくか。社会的・学術的意義は何か。 【事後】400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
2	小児医療・小児看護の国際比較と日本の構造的課題の整理	文献の精読、担当者発表、全体ディスカッション	【事前】諸外国の制度・実践のうち、日本に適用可能な要素と困難な要素は何か。【事後】400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
3	小児在宅医療の制度・体制と研究動向の批判的検討	文献レビュー発表、研究の方法論・結果の批判的検討	【事前】小児在宅医療の拡充を阻む要因は何か（制度・人材・家族負担など）。 【事後】400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
4	医療的ケア児と家族への包括的支援とケア・コーディネーションの検討	政策資料・研究論文の分析、課題抽出と討議	【事前】多職種連携が機能しない要因は何か。また、それはどのレベル（個人・組織・制度）に起因するか。 【事後】400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
5	小児救急医療体制と小児救急看護の課題と改善方策	最新研究の抄読、臨床課題の整理と批判的検討	事前：現行の小児救急体制は、どのような価値観（安全性・効率性・公平性）を優先しているか。 事後：自身の研究に活かせる知識をまとめてレポートを提出する。	学生が書籍や文献等で資料作成		
6	育児不安・育児困難の要因分析と子育て支援の理論的枠組み	理論枠組みの整理、文献に基づく討議	事前：育児不安は個人の問題か、社会構造の問題か。どのように位置づけるべきか。 事後：在宅療養児者と家族に必要な支援を考察し、レポート提出。	学生が書籍や文献等で資料作成		
7	児童虐待の発生要因と予防・早期対応におけ	ケース分析、関連研究の批判的検討、ディスカッション	事前：児童虐待の予防において、医療職はどの段階でどのように関	学生が書籍や文献等で資料作成		

	る多職種連携	ン	与すべきか。 多職種連携はなぜ機能不全に陥るのか。その構造的要因は何か。事後：包括的な支援を考察し、レポートを提出。	
8	判別分析を用いた冷え症研究の理解と量的研究手法の応用可能性	研究論文の方法論解析、統計手法の解釈と応用の検討	事前：テーマに関連した文献をまとめ、近年の動向や実態についてスライドもしくはレジメを準備。 事後：児童虐待に関する課題を考察し、レポートを提出。	学生が書籍や文献等で資料作成
9	学童期・思春期女性の健康課題に関する研究動向と看護的示唆	文献レビュー発表、看護的示唆の導出と討議	事前：テーマに関連した文献をまとめ、近年の動向や実態についてスライドもしくはレジメを準備。 事後：児童虐待に関する課題を考察し、レポートを提出。	学生が書籍や文献等で資料作成
10 11	研究デザインおよび方法論（量的・質的）の統合的検討	各自の研究テーマに基づく研究計画の構築演習、ピアレビュー	【事前】自身の研究テーマにおいて、量的・質的どちらのアプローチが適切か。その理由は何か。 【事後】400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成
12 13	研究計画発表Ⅰ：研究課題・方法論の提示と批判的討議	受講者発表、教員・受講者による批判的討議とフィードバック	【事前】発表された研究計画の独創性はどこにあるか。また、その根拠は十分か。 【事後】研究方法是研究課題に対して適切か。改善点は何か。	資料作成
14 15	研究計画発表Ⅱ：研究計画の洗練と総括	発表および総合討議、授業全体の振り返り	【事前】研究計画は、社会的課題の解決にどのように貢献し得るか。 【事後】本授業を通して、自身の研究課題はどのように深化・変容したか。	資料作成
教科書・参考文献など				
教科書・参考文献については指定はしない				
最終到達目標			評価方法	
<p>本授業の到達目標は以下のとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本と諸外国における小児医療・小児看護の動向を比較し、構造的課題を批判的に分析できる。</li> <li>2. 小児在宅医療、医療的ケア児支援、小児救急、育児支援、児童虐待予防等の領域において、主要な先行研究を精読し、その方法論および妥当性を評価できる。</li> <li>3. 量的研究（判別分析等）および質的研究の研究デザインを理解し、自身の研究テーマに適用可能な方法を選択できる。</li> <li>4. 先行研究の批判的検討を踏まえ、自身の研究課題を明確化し、博士論文につながる研究計画として発展させることができる。</li> </ol>			<p>課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(70%)・プレゼンテーション(20%)・討議(10%)</p>	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準：				
評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。				
<p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>				

授業コード	EDC0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC06				研究教育力	○
授業科目名	小児看護学開発特別演習 D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	三並 めぐる					
授業の目的						
<p>本授業は、ハイリスク新生児および小児慢性疾患を有する子どもと家族への看護実践について、Family-Centered Care、Shared Decision Making (SDM)、CRAFT 理論等の理論枠組みに基づき批判的に分析する能力を養うことを目的とする。</p> <p>さらに、プレコンセプションケア、国際セクシュアリティ教育、子どもの人権、無煙環境の推進に関する課題を、国際的視点および研究的視座から統合的に検討し、小児看護学領域における独自の研究課題を設定し、研究計画を構築する能力を養う。</p>						
授業の概要						
<p>ハイリスク新生児および小児慢性疾患を有する子どもと家族への高度実践について、生命維持、痛みのケア、デベロップメンタルケア、愛着形成、感染対策等の観点から検討する。</p> <p>小児事例を用いたコンサルテーションを通して、アセスメント、問題の明確化、意思決定支援、倫理的配慮、社会資源の活用を含む実践過程を分析し、Family-Centered Care、Shared Decision Making (SDM)、CRAFT 理論を基盤とした統合的理解を深める。さらに、さらに、プレコンセプションケア、国際セクシュアリティ教育、子どもの人権、無煙環境の推進などの現代的課題について、WHO や国際ガイドライン (ITGSE 等) および各国の政策動向を踏まえた国際比較の視点から検討する。</p> <p>授業は、文献クリティーク、プレゼンテーション、ディスカッション、フィールドワークを中心に展開し、小児看護学における実践と研究の接続を図る。最終的には、受講者が自らの研究課題を明確化し、理論的枠組みに基づいた研究計画を構築することを目指す。(オフィスアワー：火曜日 13：10～14：40)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1～4	オリエンテーション ハイリスク新生児とその家族への高度実践	新生児の痛みのケアガイドラインを用いて、新生児の痛みのケア、発達支援、愛着形成、Family-Centered Care の視点での分析、ガイドラインの批判的検討、文献クリティーク	【事前】テーマについてスライド 4～8 枚作成と発表準備を行う【事後】400 文字で振り返る	NICU に入院している新生児の痛みのケアガイドライン 2020 年 (改訂)・実用版		
5～6	小児コンサルテーションと SDM	アセスメント、問題構造化、意思決定支援と倫理、小児事例に基づいてのコンサルテーションをプロセス、SDM (共有意思決定) は医療者と患者が対等な立場で治療を選ぶプロセス	【事前】テーマについてスライド 4～8 枚作成と発表準備を行う【事後】400 文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
7～9	先天性疾患や小児慢性特定疾患のある小児と家族の包括的ケア	重篤な疾患のある子どもの医療をめぐる ACP・共有意思決定、倫理的ジレンマ、ガイドラインの適用と限界	【事前】テーマについてスライド 4～8 枚作成と発表準備を行う【事後】400 文字で振り返る	重篤な疾患を持つ子どもの医療をめぐる話し合いのガイドライン		
10～12	プレコンセプションケアと世界セクシュアリティ教育①	国際ガイドライン (ITGSE 等、健康教育と権利、プレコンセプションケア	【事前】テーマについてスライド 4～8 枚作成と発表準備を行う【事後】400 文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
13～18	プレコンセプションケアと世界セクシュアリティ教育②	子どもの性の健康を守るために子どもの性の健康、教育実践と課題、日本における適用可能性	【事前】テーマについてスライド 4～8 枚作成と発表準備を行う【事後】400 文字で振り返る	「子どもの性の健康を守るために 1～12」事前資料配布		

19～22	CRAFT 理論による家族アプローチ	CRAFT 理論による家族アプローチ、家族支援モデル、行動変容理論、実践応用	【事前】テーマについてスライド 4～8 枚作成と発表準備を行う【事後】400 文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成
23～28	子どもと家族の無煙環境	子どもと家族の無煙環境について、SDGs と健康、政策・介入プログラム、研究論文レビュー	【事前】テーマについてスライド 4～8 枚作成と発表準備を行う【事後】400 文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成
29～30	研究課題の構築	先行研究レビュー 理論枠組みの設定 研究の独自性検討・究課題の明確化	【事前】先行研究レビュー 【事後】研究の独自性検討・究課題の明確化	学生が自分の研究課題を捉えて加えて資料作成
31	試験			

#### 教科書・参考文献など

1. 日本新生児看護学会：NICU に入院している新生児の痛みのケアガイドライン（改訂）・実用版（2020）
2. 日本小児科学会：重篤な疾患を持つ子どもの医療をめぐる話し合いのガイドライン（2012）
3. 遠見才希子：子どもの性の健康を守るために、1～12（2020）
4. 包括的性教育の推進に関する提言書（2022）

#### 最終到達目標

1. 小児看護実践を、Family-Centered Care および SDM の理論に基づき分析・評価できる。
2. 小児事例に対し、コンサルテーションおよび CRAFT 理論を用いて問題構造を体系的に説明できる。
3. 倫理的課題について、理論枠組みを用いて批判的に検討できる。
4. セクシュアリティ教育・プレコンセプションケア・無煙環境について、国際比較の視点から課題を分析できる。
5. 質的・量的研究方法論を理解し、研究課題に適した研究デザインを構築できる。
6. 小児看護学領域において、独自性のある研究計画を立案できる

#### 評価方法

課題達成度を以下の方法で評価する  
筆記試験（60%）・課題レポート（20%）・プレゼンテーション（20%）

#### 履修判定基準・評価基準

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EDC0602			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目				研究教育力	○
授業科目名	小児看護学開発特別演習D	選択・必須	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	羽藤 典子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本特別演習は、小児と家族を対象とした小児看護学領域において用いられる多様な研究方法を理解し、自己の関心領域に基づく研究課題を深化させるとともに、研究計画を立案する能力の修得を目的とする。</p> <p>本演習では、小児看護学開発特論Dで取り上げた課題を基盤とし、現状および課題の分析・検証にとどまらず、介入方法の在り方や支援開発、看護介入の構築を見据えた文献研究、分析、討論を行う。国内外の先行研究レビューを通して、最新の知見および研究動向を批判的に検討し、プレゼンテーションおよびディスカッションを通じて、新規性のある研究視点の獲得と研究課題の精緻化を図る。</p> <p>さらに、受講者の研究関心に応じて関連学会等へ参加し、最新の学術的知見を取り入れることで、多角的視点から臨床現場の課題解決へと接続する力を養う。これらの学修過程を通して、調査研究や予備研究の設計、介入方法および看護技術の開発、さらには看護理論の構築を視野に入れた研究プロトコル作成の方法を修得し、自身の研究課題を発展させる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本特別演習では、小児と家族を対象とした小児看護学領域における多様な研究方法について理解を深めるとともに、自己の関心に基づく現象を探究し、研究計画を立案するための実践的能力の修得を目指す。</p> <p>本演習では、小児看護学開発特論Dで取り上げた課題を発展させ、現状および課題の分析・検証に加え、介入方法の在り方や支援開発、看護介入の構築を視野に入れた文献研究、分析、討論を行う。国内外の先行研究レビューを通して、最新の知見や研究動向を批判的に検討し、プレゼンテーションおよびディスカッションを通して研究課題の焦点化と新規性のある研究視点の獲得を図る。</p> <p>さらに、受講者の研究関心に応じて関連学会等への参加を通じて最新の学術的知見を取り入れ、多角的な視点から臨床現場の課題解決に結びつける力を養う。これらの学修過程を通して、調査研究や予備研究の設計、介入方法および看護技術の開発、さらには看護理論の構築を見据えた研究プロトコル作成の方法を修得し、自身の研究課題の深化を図る。(オフィスアワー 羽藤：火曜日 17:00~18:00)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1.2	科目オリエンテーション①②	授業の目的・構成・評価方法の理解／研究テーマの共有 小児看護研究の動向と研究課題の明確化	【事前学習】 小児看護学開発特論Dで扱った内容を整理し、自身の研究課題との関連を明確にしておく。 【事後学習】 授業で得た知見を踏まえて内容を再整理し、小児看護に関する課題テーマを理解する。	NICU に入院している新生児の痛みのケアガイドライン 2020年(改訂)・実用版		
3~12	課題に対する介入方法の検討	第3回 研究課題の背景整理と現状の分析 第4回~5回 課題に対する既存の看護文献の整理 第6回 国内研究における介入方法の特徴と課題の検討 第7回~9回 介入方法の評価指標とアウトカムの検討 第10回 実践への適用可能性と倫理的配慮 第11回~12回 研究の研究デザインの検討(量的・質的)と介入方法の再構成と研究課題と	【事前学習】 研究課題に関連する看護および支援に関する文献を検索・収集し、内容を把握しておく。 【事後学習】 授業での学びを踏まえ、先行研究における看護介入方法の限界や問題点を整理し、研究課題との関連から課題を明確化する。	学生が書籍や文献等で資料作成		

		の統合		
13～ 20	海外文献のクリ ティーク	<b>第13回</b> 海外文献の検索戦略と批判的読 解の視点 <b>第14回～18回</b> 海外文献クリティーク①～⑤ 介入研究・観察研究・調査研究・ 質的研究・システムティックレビ ュー・理論研究・概念研究) <b>第19回～20回</b> 海外文献の知見の統合と日本へ の適用可能性の検討	<b>【事前学習】</b> 研究課題に関連する海外文献 を検索・収集し、内容を把握し ておく。 <b>【事後学習】</b> 海外文献のクリティークを通 して知見を整理し、グローバル な視点から研究課題を分析・再 検討する。	学生が書籍や文献 等で資料作成
21～ 30	研究課題の概念 化と研究計画の 構築	<b>第21回</b> 研究課題の再定義と研究目的の 明確化 <b>第22回～23回</b> 概念枠組みの構築①（主要概念の 抽出） <b>第24回</b> 操作的定義と測定可能性の検討 <b>第25回～26回</b> 研究デザインの具体化（量的・質 的の選択・対象・方法・分析） <b>第27回</b> 倫理的配慮と研究の実現可能性 の検討 <b>第28回～29回</b> 研究プロトコルの作成①②（構成 と記述・発表と修正） <b>第30回</b> 最終研究計画の発表と総括	<b>【事前学習】</b> 課題テーマに関連する先行文 献を検索・収集し、内容を整理 しておく。 <b>【事後学習】</b> 授業での学びを踏まえ、先行文 献の知見を再整理するととも に、研究課題との関連から課題 を明確化する。	これまでの実践を 踏まえた事例等か ら資料を作成
教科書・参考文献など				
1. よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版、日本看護協会出版社				
最終到達目標			評価方法	
<p>本演習を通して、受講者は小児と家族を対象とした小児看護学領域にお ける研究方法を体系的に理解し、国内外の先行研究を批判的に検討する 力を修得する。さらに、研究課題に対する看護介入および支援の在り方 について理論的・実証的に考察し、グローバルな視点を踏まえて研究課題を 精緻化する。</p> <p>これらを基盤として、研究課題の概念化を行い、適切な研究デザインおよ び方法論を選択した上で、看護介入や支援開発を視野に入れた独創性 のある研究プロトコルを作成し、博士論文へと発展可能な研究計画を立案 できる能力を修得する。</p>			<p>課題達成度を以下の方法で評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題レポート (70%)</li> <li>・ プレゼンテーション (20%)</li> <li>・ 討議 (10%)</li> </ul>	
履修判定基準・評価基準				
<p>履修判定基準：          評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)          B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)          C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)          D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)          (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>				

授業コード	EDC0902			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC09				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	佐伯 由香					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と往還的な作用効果のある研究により、研究成果から得られたケアプログラムの効果検証を目指すことを目的として、「研究計画」を展開するための科目である。展開される授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに基づく課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い倫理審査を受ける。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>学生自身の個別テーマに合わせて研究指導を実施する。文献レビューによる課題の焦点化と課題の選定、研究目的の明確化とそれに合う研究方法の検討を行う。研究方法を決定した後、研究計画書の作成と倫理審査申請書の作成を行う。</p> <p>担当教員の指導可能な研究テーマを以下の通りである。</p> <p>1. 看護技術の心身に及ぼす影響、2. 補完代替療法の心身に及ぼす影響、3. 疼痛の客観的評価と緩和方法の検証、4. 清潔ケアが皮膚生理機能に及ぼす影響</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション	学生自身の研究に関連する文献の検索、レビューを行い、関連する研究周辺の様々な知識を整理・分析し、研究課題を絞る。	興味のある領域の専攻研究を探索し、研究課題の周辺テーマをについて情報を集約する。文献を客観的に精査し、課題の周辺の研究の整理・分析を行う。	適宜指示		
2						
3						
4						
5						
6	研究目的を明確にし、それを達成するための研究方法を検討する	先行研究を精査し、目的達成のための研究方法を選択する。	研究計画書を作成する。いくつかの研究で構成されるように研究を構築し、往還的な研究に進化させる。	適宜指示		
7						
8						
9						
10	研究論文の中間発表として、研究計画発表を行う	研究計画を立てて、中間発表の資料を作成する。発表によって矛盾や疑問点を解決して研究計画書を完成させる。	計画書を何度も読み返し、完成度を高める。発表準備を行う。発表後の指摘事項を加味して計画書を修正する。	適宜指示		
11						
12						
13	1年次の内に研究倫理審査を行う	研究倫理審査申請書を作成し、各書類を整えて申請する。	倫理審査申請書の様式を事前に取り寄せる。倫理審査の結果を受けて修正する。	適宜指示		
14						
15	研究調査を開始する	倫理審査で指摘された部分を改善する。承認が下りたら、調査を開始する。	倫理審査と計画書を読み返し、指摘があれば改善する。	倫理申請書案		
<b>教科書・参考文献など</b>						
<p>1. 黒田裕子著：看護研究 step by step 第6版、医学書院、2023</p> <p>2. 牧本清子、山川みやえ：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、日本看護協会出版、2020</p>						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		

1. 自己の研究課題解決に向けた独創的な研究計画書が完成する。 2. 研究倫理審査委員会に申請書を提出し、承認を得る。 3. 博士論文に関連する副論文作成の準備をする。	
履修判定基準・評価基準	
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EDC0903			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC09				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	三並めぐる					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、本科目は、保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と往還的な作用効果のある研究により、研究成果から得られたケアプログラムの効果検証を目指すことを目的として「研究計画」を展開するための科目である。各担当教員により展開される授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに基づく課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査 申請書の作成を行い、倫理審査を受ける。保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と、臨床志向で、臨床と教育の往還的な作用効果のある研究とにより、ケアプログラムの効果検証を目指し、研究計画を展開するための科目である。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>担当教員が展開する授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに関する課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受ける。</p> <p>担当教員の指導可能な研究テーマは以下の通りである。</p> <p>1. 子どもの発達段階におけると家族の意思を尊重した支援、2. 子どもの養育環境における子どもの QOL 向上と家族支援、3. 養護教諭の危機管理能力と健康教育プログラム開発の実施・検証、4. 学校保健における健康課題のケアプロセスと養護教諭のコンピテンシー、5. タバコフリー社会実現にむけて小児と家族支援プログラム開発と効果検証など</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 15：00-16：30)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目刈エーション 文献のクリティークを行い、研究課題を見つける。	自研究に関連する文献の検索を行い、文献レビューによる研究課題周辺の様々な知見を整理・分析し、研究課題を絞る。	先行研究を検索し、自己の研究課題の周辺テーマについて情報を集める。文献をクリティークし、課題の周辺の研究に整理・分析を行う。研究課題を明確化していく。	関連文献は自身で検索 黒田裕子著：看護研究 step by step 第6版、医学書院、2,970円 (2023) 2 牧本清子・山川みやえ編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、日本看護協会出版会		
2						
3						
4						
5						
6	研究目的を明確にし、研究計画書を作成する。	文献を分析し、課題を論理的に説明。研究の目的と目標を設定し、それに合う研究方法を選択し、研究の意義と価値を示す。	研究計画書を記載していく。いくつかの研究で構成されるように研究を設計し、往還的な研究であることを確認する。	研究計画書案		
7						
8						
9						
10	1年次 11月に研究論文の中間発表として、研究計画発表を行う	研究計画を立て、中間発表の資料を作成する。発表によって矛盾や疑問点を解決して研究計画書を完成させる	計画書の文章を何度も読み返し、完成度を高める。発表準備を行う。発表後に質疑応答の内容を加味して計画書を修正する。	先行研究論文は自身で検索		
11						
12						

13	1 年次以内に研究倫理申請を行う	倫理審査申請書を作成し、各書類を整えて、申請する。	倫理審査申請書の様式を事前に取り寄せる。倫理審査の結果を受けて修正する	D.F. ポーリット他：看護研究, 原理と方法, 医学書院, 2010.
14				
15	研究調査を開始する	倫理審査で指摘部分を改善する。承認が下りたら、調査を開始する	倫理審査と計画書を読みかえし、指摘があれば改善する。	倫理申請書案
教科書・参考文献など				
教科書				
1 黒田裕子著：看護研究 step by step 第6版、医学書院、2,970円(2023)				
参考書				
1 牧本清子・山川みやえ編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、日本看護協会出版会、3,520円(2020)				
2 D.F. ポーリット他：看護研究 原理と方法、医学書院、10,450円(2010)				
3 その他、研究方法に沿った参考書				
最終到達目標			評価方法	
1 自己の研究課題解決に向けた独創的な研究計画書が完成する。			課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(90%)・プレゼンテーション(10%)	
2 倫理委員会に申請書を提出する。				
3 博士論文に関連する副論文作成の準備をする。				
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準：				
評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。				
A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)				
B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)				
C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC0905			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC09				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年/通年	単位数	2			
担当教員	高田律美					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と円環的な作用効果のある研究により、研究成果から得られたケアプログラムの効果検証を目指すことを目的として「研究計画」を展開するための科目である。各担当教員により展開される授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに基づく課題の明確化、研課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受けることを目的とする。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本科目は、各自の研究テーマについては院生の関心あるテーマを探求するが、担当教員の研究テーマを参考にしてテーマを探求してもよい。それらは以下の通りである。1. 思春期前期からのプレコンセプションケアの研究、2. 睡眠研究及び乳幼児突然死に関連する研究、3. リプロダクティブヘルス・ライツに関する研究、4. 出産直後の子育て（母乳育児等）の子どもの成長要因に及ぼす影響、5. 子育て期にある夫婦の社会関係に関連するコンストラクト要因の研究、6. 母子を一体とした領域・時系列横断的な研究、途上国の母子調査研究</p> <p>本科目の展開は1年次の11月に研究計画書発表後、1月に研究計画書完成し、3月の倫理審査委員会へ提出審査を受けることを念頭に進めていく。授業はゼミ式でディスカッションを行う。 （オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50）</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。研究課題の検討	科目の進め方についてオリエンテーションを実施。関心あるテーマについてグループディスカッションを行う。	事前にシラバスを読み、年間スケジュールを把握する。事後には関心あるテーマについて授業中にレポート課題を指示すので文章化する。	大学院要覧 適宜提示		
2	研究課題の明確化：文献検討	各自の持参した論文とレポート課題を発表し、グループディスカッションしつつ研究課題を明確化する。	事前に第1回目の事後レポートを参考にキーワードに沿って文献検索し、授業中に提示できるようにする。事後は文献を検討し研究課題を明確化しレポートする。	適宜提示		
3	研究テーマと研究枠組みの決定：文献検討	研究課題に関連した国内外の文献をレビューしてグループディスカッションしつつ研究テーマを決定する。	事前に研究課題に関連した文献を検索し、文献一覧にするとともにその内容をクリテイクしておく。事後は研究テーマを明確化しレポートする。	適宜提示		
4	研究枠組み等の発表	②-⑥の授業を参考に各自のテーマ、リサーチクエッション、研究枠組みを文献の挿入されたレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	事前に各自のテーマ、リサーチクエッション、研究枠組みを文献の挿入されたレジメを準備する。事後は研究計画書の内容を確認して発表の内容を記載しておく。			
5	研究計画書の作成	研究計画書の発表とグループディスカッションし修正箇所を検討する。	事前に文献をさらに検索し一覧表にして研究計画書を作成および修正しプレゼンテーションの準備をする。事後は授業での検討内容について計画書を修正する。	適宜提示		
6	調査対象の選択・調査現場の連絡調整等の準備	研究計画に従い、調査対象を確定し、依頼文を検討し、具体的に連絡しておく。	事前・事後に調査対象や調査内容を検討し、依頼文を作成する。	適宜提示		

7, 8	研究計画書の修正	研究計画書の発表とループディスカッションし修正箇所を検討する。	事前に文献をさらに検索し一覧表にして研究計画書を作成および修正しプレゼンテーションの準備をする。事後は授業での検討内容について計画書を修正する。	適宜提示
9	研究計画書発表会の準備	発表会に向けての準備をする	発表会に向けてのパワーポイントとレジメの作成、発表の練習	適宜提示
10	研究計画書発表会	研究計画書の発表	事前に指摘される点について検討しておく。事後は指摘された点のまとめをしておく。	
11	研究計画書の完成	発表会で指摘を受けた内容について再検討し、研究計画書を完成させる。	事前には指摘された内容について検討修正し授業に臨む。	適宜提示
12, 13	倫理申請書の作成提出	倫理委員会の書類について検討し、完成後に提出する。	事前に倫理委員会の書類を作成し、授業で検討できる準備をする。事後に授業での検討に沿って修正する。	適宜提示
14	研究計画書の修正	倫理委員会の審査決定後に必要な書類や研究計画書の修正をする。	倫理委員会の決定に沿って事前・事後に書類や研究計画書の修正をする。	適宜提示
15	調査対象や確定、調査依頼の準備	研究計画に従い、調査対象を確定し、調査の依頼文の修正等書類を完成させ、連絡をする。	事前・事後に調査対象や調査内容を検討し、依頼文等の書類を作成する。	適宜提示
教科書・参考文献など				
参考文献 *看護研究原理と方法 第2版、ポーリット&ハングラウ著、医学書院、(2014)、*バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版、Suzan K. Groveら著、ELSEVIER (23015)、適宜提示する。				
最終到達目標			評価方法	
1. 文献検討及び研究テーマの決定、研究方法論の決定ができる。 2. 研究計画書を作成し、研究発表会に臨める。 3. 研究計画書を修正し、完成できる。 4. 倫理審査委員会に申請書を提出でき、適宜修正箇所を修正し審査を通ることができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC1002			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC10				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 II D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	2			
担当教員	佐伯由香					
<b>授業の目的</b>						
本科目は看護実践開発特別研究 ID で作成した研究計画に基づいて、研究目的を達成するよう調査を遂行することを目的とする。						
<b>授業の概要</b>						
研究データの収集、信頼性・妥当性のある手法を用いてデータの分析を行い、研究目的に沿った結果を導く。さらに得られた結果を考察し、目的、方法、結果と一貫性、整合性があるか確認する。新規性、独創性のある研究論文を作成し、副論文として学術誌に投稿する。						
(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション	研究課題ならびに今後のスケジュールについて確認する	学修課題に沿った準備	適時指示		
2～6	データ収集	計画書に沿って目的とする第1段階のデータ収集を行う	学修課題に沿った準備	適時指示		
7～11	データの分析と整理	計画書に沿ったデータの整理と分析を行う	学修課題に沿った準備	適時指示		
12	結果のまとめ	分析された結果を整理してまとめる	学修課題に沿った準備	適時指示		
13	考察	結果の考察を行う	学修課題に沿った準備	適時指示		
14	学内発表	中間発表の資料を作成し、発表を行う	学修課題に沿った準備	適時指示		
15	副論文の投稿	論文の発表を行う	学修課題に沿った準備	適時指示		
<b>教科書・参考文献など</b>						
適時指示						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
中間発表で成果を報告できる。 研究課題の一部を副論文として投稿できる。				副論文の完成度 (80%)・プレゼンテーション (20%)		
<b>履修判定基準・評価基準</b>						
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A (100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B (79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)						

授業コード	EDC1003			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC10				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究ⅡD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	2			
担当教員	三並めぐる					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、本科目は、看護実践開発特別研究ⅡDで作成した研究計画に沿って、研究目的を達成するように各種研究手法（調査、実験、質的研究）を用い、研究活動を遂行することを目的とする。研究実施の依頼と同意の確認、妥当性のある研究データの収集、正確で信頼性・信憑性・妥当性のある手法を用いた分析、整合性と一貫性のある結果と考察が展開された原著論文（新規性、独創性、社会的意義）を作成するとともに学術誌の投稿を指導する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>研究実施の依頼と同意の確認、妥当性のある研究データの収集、正確で信頼性・信憑性・妥当性のある手法を用いた分析、整合性と一貫性のある結果と考察が展開された原著論文を作成し、新規性、独創性のある研究論文を学術誌に投稿する。</p> <p>担当教員の指導可能な研究テーマは以下の通りである。</p> <p>1. 子どもの発達段階におけると家族の意思を尊重した支援、2. 子どもの養育環境における子どもの QOL 向上と家族支援、3. 養護教諭の危機管理能力と健康教育プログラム開発の実施・検証、4. 学校保健における健康課題のケアプロセスと養護教諭のコンピテンシー、5. タバコフリー社会実現にむけて小児と家族支援プログラム開発と効果検証など</p> <p>（オフィスアワー：水曜日 15：00-16：30）</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション（三並） 研究活動を推進し、調査を実施する。	研究計画に沿って研究データの収集を行う。研究倫理原則に則り、丁寧なデータ、質の良いデータが収集できるための計画を綿密に行う。	研究倫理申請書に則り、各種の書類を準備する。調査を実施する。データを解析・分析する。	各種のデータ解析法関連の著書		
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9	2年次11月に中間発表としてデータ解析の結果と考察を発表する。	1段階の調査を集計・分析し、結果を出す。考察・結論までを発表する。中間発表の資料を作成し、プレゼンテーションする。質疑に適切にする。	データの分析を行う。結果を出し、考察し、結論を導き、発表する準備をする。質疑の内容を加味し、論文に活かす。次の調査の準備を始める。	中間発表資料		
10						
11						
12	学会に副論文を投稿する。	学会発表及び論文を投稿する。	データを分析し、	副論文		
13						
14						
15	副論文を投稿し掲載が決まる。	各雑誌の執筆要領と論文審査に則って、論文の完成度を挙げて掲載が決まる。	第1段階から次段階の調査へ移行し、調査を始める。	副論文		
<b>教科書・参考文献など</b>						
<b>教科書</b>						
1 黒田裕子著：看護研究 step by step 第6版、医学書院、2,970円（2023）						

<b>参考書</b> 1 牧本清子・山川みやえ編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、日本看護協会出版会、3,520円（2020） 2 D.F. ポーリット他：看護研究 原理と方法、医学書院、10,450円（2010） 3 その他、研究方法に沿った参考書	
<b>最終到達目標</b>	<b>評価方法</b>
自己の研究計画に追って、調査を実施し、倫理的配慮を徹底して実施したうえでデータの収集ができる。 収集したデータを集計、分析し、一つの研究として結果と結論を導き出し、中間発表会で報告できる。 副論文投稿できる。	課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(90%)・プレゼンテーション(10%)
<b>履修判定基準・評価基準</b>	
<b>履修判定基準：</b> <b>評価基準：</b> 評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) ( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )	

授業コード	EDC1005			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC10				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 II D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2年/通年	単位数	2			
担当教員	高田律美					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、看護実践開発特別研究 ID で作成した研究計画に沿って、研究目的を達成するように各種研究方法（調査、実験、質的研究）を用い、研究活動を遂行することを目的とする。研究実施の依頼と同意の確認、妥当性のある研究データの収集、正確で信頼性・信憑性・妥当性のある手法を用いた分析、整合性と一貫性のある結果と考察が展開された原著論文（新規性、独創性、社会的意義）を作成するとともに学術誌の投稿を目的とする。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本科目は、各自の研究テーマについては院生の関心あるテーマを探求するが、担当教員の研究テーマを参考にしてテーマを探求してもよい。それらは以下の通りである。1. 思春期前期からのプレコンセプションケアの研究、2. 睡眠研究及び乳幼児突然死に関連する研究、3. リプロダクティブヘルス・ライツに関する研究、4. 出産直後の子育て（母乳育児等）の子どもの成長要因に及ぼす影響、5. 子育て期にある夫婦の社会関係に関連するコンストラクト要因の研究、6. 母子を一体とした領域・時系列横断的な研究、途上国の母子調査研究</p> <p>本科目の展開は2年次の11月に博士論文中間発表、1月に研究計画書完成し、3月副論文完成し投稿することを念頭に進めていく。授業はゼミ式でディスカッションを行う。 （オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50）</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。調査項目と調査方法を検討	科目の進め方についてオリエンテーションを実施。研究計画調書に沿って調査項目と調査方法を検討する。	事前に研究計画所に沿って、今後のスケジュールを立案する。事後には関心あるテーマについて授業に調査票の内容を検討し、次回の提出に備える。	大学院要覧 適宜提示		
2	調査対象者への依頼文の決定、同意書の決定、調査依頼。	調査対象者への依頼文の決定、同意書の決定、調査票、インタビューガイドを作成する。調査依頼をする。インタビューや調査票配布についてあらかじめのシミュレーションを行う。調査を依頼する。	事前に調査対象者への依頼文、同意書を作成する。調査票やインタビューガイドの準備をする。事後にはインタビューや調査票配布についてあらかじめのシミュレーションを行う。調査対象者についての情報を整理する。データ入力の準備をする。	適宜提示		
3	調査依頼・データ収集	調査対象者にインタビューや調査票配布をおこなう。必要時追加の依頼を実施する。	事前に調査についての進め方や関連施設の人との打ち合わせをし、検討事項、回収時期や方法を確認する。事後は調査票やインタビュー内容を整理しデータ入力を行う。研究課題に関連した文献を検索し、文献一覧にするとともにその内容をクリテイクしておく。事後は研究テーマを明確化しレポートする。	適宜提示		
4	データ収集とデータ分析	必要時追加のデータ収集を行う。データの分析を行う。分析結果についてディスカッションを行う。	事前にデータ入力と分析方法を確認し、分析に必要なソフトや枠組みを準備する。事後はデータ分析の適切な処理を確認する。	適宜提示		
5	データ分析と結果の図表化	分析の結果を計画書に従って図表化したものを検討する。考察の方向性についてディスカッション	事前に検討した分析結果を図表化しておく。結果を考察できる文献を検索しておく。事後は図表の文献を修正	適宜提示		

		を行う。	し、考察を展開できるよう文献を検索し、結果と考察の方向性を決定する。	
6	研究論文の作成	研究の成果を論文として執筆した内容を提示し、ディスカッションを行う。	事前に研究成果を論文として執筆し、迷っている点などを明確化する。事後はディスカッションした結果を研究論文に反映させ修正する。	適宜提示
7	研究論文の中間発表の準備	研究論文を中間授業中に発表のシュミレーションを行い意見交換する。	事前に研究論文を中間発表できるように、パワーポイントとレジメを作成し、発表練習する。事後は授業での検討内容についてパワーポイントやレジメを修正し、再度発表練習をする。	適宜提示
8	研究論文の中間発表	発表会で研究成果を発表し、質疑応答に解答する。	事前に発表会資料の確認をし、発表の練習をする。事後に発表会で指摘された意見を整理して論文についての課題を明確化する。	
9、10	研究論文の作成	発表会での意見で明確化された課題をもとに修正された論文についてディスカッションを行う。最終の研究発表の準備の進捗状況を発表する。	事前に発表会で指摘された意見をもとに明確化された点を反映させ論文を修正する。必要時文献の追加修正も行う。事後は授業中に得られた知見をもとに論文を修正し、	適宜提示
11、12	研究副論文の投稿の準備	副論文の投稿するための準備したものを再検討する。	事前に論文の最終発表会で指摘が予想される点について投稿内容を修正する。事後は再検討結果で論文を修正する。	適宜提示
13	研究論文の投稿提出	投稿論文のおよび関連書類について検討し、完成後に提出する。	事前に投稿関連の書類を作成し、授業で検討できる準備をする。事後に授業での検討に沿って修正する。	適宜提示
14	研究論文の査読結果の修正	投稿論文の査読結果で指摘をもとに論文修正を行う。	事前に査読で指摘を受けた点について論文の修正を行う。事後は授業で受けた意見をもとに論文を見直す。	適宜提示
15	研究論文の査読後修正・最終提出	査読で指摘を受けた箇所の修正を修正し、論文を提出する。第1段階から第2段階の調査に移行する。	事前に査読で指摘を受けた箇所の修正を修正する。事後に論文を様式も含め最終確認し提出する。第2段階の調査の準備をする。	適宜提示
教科書・参考文献など				
参考文献 *看護研究原理と方法 第2版、ポーリット&ハングラ著、医学書院、(2014)、*バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版、Suzan K. Groveら著、ELSEVIER (23015)、適宜提示する。				
最終到達目標			評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門領域において意義のある研究課題を設定できる。</li> <li>2. 研修課題に関する文献を論文に反映できる。</li> <li>3. 研究課題に適した研究方法を実施できる。</li> <li>4. オリジナリティのある論文が投稿できる。</li> <li>5. 教育研究者・実践者としての倫理観や倫理的態度を身につけることができる。</li> </ol>			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC1103			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC11				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究ⅢD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	3年次/通年	単位数	2			
担当教員	三並めぐる					
授業の目的						
<p>本科目は、看護実践開発特別研究ⅠD、ⅡDで遂行してきた研究を博士論文として完成させることを目的とする科目である。一つひとつの研究の「問い（リサーチクエスション）」に対して、信頼性と妥当性のある研究結果を導き出すとともに、いくつかの研究結果としてまとめ、研究の「問い」を構造化しながら執筆要領に沿って論文を執筆することを目的とする。そして総合的考察と臨床への研究的サジェスションで展開する研究論文は、新規性と独創性があること、実践に応用可能であること、今後、各領域の看護学の発展に貢献することが可能であることなどを重要視して論旨を展開する。</p>						
授業の概要						
<p>一つ一つの研究は信頼性と妥当性のある研究結果を導き、いくつかの研究結果をまとめ、総合的考察と臨床と研究へのサジェスションで展開された研究論文は、新規性と独創性があり、実践に展開可能であること、今後の各領域の看護学に発展的に貢献することが可能であることを重要視して、論旨を展開する。</p> <p>担当教員の指導可能な研究テーマは以下の通りである。</p> <p>1. 子どもの発達段階におけると家族の意思を尊重した支援、2. 子どもの養育環境における子どものQOL向上と家族支援、3. 養護教諭の危機管理能力と健康教育プログラム開発の実施・検証、4. 学校保健における健康課題のケアプロセスと養護教諭のコンピテンシー、5. タバコフリー社会実現にむけて小児と家族支援プログラム開発と効果検証など</p> <p>(オフィスパワー：水曜日 15:00-16:30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション (三並)	各調査と分析が終了し、本格的に博士論文作成に取り組む。 11月までに博士論文を完成し、予備審査関連書類とともに論文を提出する。副論文提出も必要となる(掲載が決定している場合は証明書でも可)	調査の分析と考察、博士論文の執筆、各種書類の準備を整える。提出後は、3年次中間発表の準備を行う。同時に論文の内容を確認し、質疑に対応できるよう必要なデータは手元に置けるように準備する。論文は執筆要領と審査基準を確認し、内容が基準を満たすように記述する。	必要な資料は配布 松山看護学研究科2023年度大学院要覧、p32-41		
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9	3年次11月に予備審査願を提出し、審査を受ける	必要な書類を整えて、審査願を提出した後に、11月-12月に主査1名と副査2名の合計3名が審査を行う。研究の概要を15分程度(主査の指示による)で説明し、1時間程度の質疑に対応する。指摘事項などは筆記しておき、再提出などの指示があれば、指定された期日までに論文を修正する。 博士論文の中間発表を行う	審査時の質疑に答えられるよう、準備をする。審査結果を受け、修正が必要な場合は、指定の期日までに修正を行う。その際、質疑や指摘事項に対する修正について、対応表を作成する等、審査者が分かりやすいよう提示する。不合格となった場合は、次年度の提出に向けて論文内容を吟味し、追加・修正する。 中間発表の準備をする	必要な資料は配布 松山看護学研究科2023年度大学院要覧、p32-41		
10						
11					11月に中間発表を行う	
12	3年次1月に学位論文審査書類を提出し、審査を受	予備審査に合格すると論文審査(本審査)の提出を行う。本審査は、原則、予備審査と同じ3名の	質疑に対応できるよう、準備しておく。論文の概要と、予備審査後修正した点を15分程度で説明で	必要な資料は配布 松山看護学研究		

13	ける。	審査者で行われる。審査者からの修正事項、追加事項を15分程度で説明し、1時間程度の質疑に回答する。修正が必要な場合は、指定された期日に提出し、再度論文審査を受ける。	きるよう準備する。修正後再提出が必要な場合は、指定された期日に提出する（指摘内容と修正箇所が示された表も必要）。再度審議を受ける。不合格となった場合は、次年度の提出までに見直す。最終発表の準備をする。	科2023年度大学院要覧、p32-41
14	2月博士論文最終発表を行う（研究科の審査の一環）	最終発表を行う。		
15				
16	最終論文審査と口頭試験を受ける			
教科書・参考文献など				
大学院要覧				
最終到達目標			評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博士論文を執筆し、予備審査・本審査を受けることができる。</li> <li>2. 各審査で質疑に対応できる。助言及び指摘について、論文を適切に修正して提出できる。</li> <li>3. 中間発表と最終発表で、自己の研究を報告でき、審査を終えることができる。</li> <li>4. 最終的には論文審査に合格する。</li> </ol>			課題達成度を以下の方法で評価する 博士論文執筆(90%)・プレゼンテーション(10%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準：				
評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。				
A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)				
B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)				
C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC1105			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC11				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究ⅢD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	3年/通年	単位数	2			
担当教員	高田律美					
授業の目的						
<p>本科目は、看護実践開発特別研究ⅠD、ⅡDで遂行してきた研究を博士論文として完成させることを目的とする科目である。一つひとつの研究の「問い（リサーチクエスト）」に対して、信頼性と妥当性のある研究結果を導き出すとともに、いくつかの研究成果としてまとめ、研究の「問い」を構造化しながら執筆要領に沿って論文を執筆することを目的とする。そして総合的考察と臨床への研究的サジェスションで展開する研究論文は、新規性と独創性があること、実践に応用可能であること、今後、各領域の看護学の発展に貢献することが可能であることなどを重要視して論旨を展開することも目的とする。</p>						
授業の概要						
<p>本科目は、各自の研究テーマについては院生の関心あるテーマを探求するが、担当教員の研究テーマを参考にしながらテーマを探求してもよい。それらは以下の通りである。1. 思春期前期からのプレコンセプションケアの研究、2. 睡眠研究及び乳幼児突然死に関連する研究、3. リプロダクティブヘルス・ライツに関する研究、4. 出産直後の子育て（母乳育児等）の子どもの成長要因に及ぼす影響、5. 子育て期にある夫婦の社会関係に関するコンストラクト要因の研究、6. 母子を一体とした領域・時系列横断的な研究、途上国の母子調査研究</p> <p>本科目の展開は3年次の10月に博士論文予備審査書類提出、11月博士論文中間発表、1月博士論文本提出・本審査、2月博士論文最終発表、最終審査、最終試験があることを念頭に進めていく。授業はゼミ式でディスカッションを行う。</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。第2段階の調査の実施を行う。	各調査と分析が終了し、博士論文の執筆を行う。副論文の投稿が必要な際は投稿する。	調査と分析を行う。副論文の投稿が必要な際は投稿する。	大学院要覧 適宜提示		
2、3	データ収集とデータ分析	必要時追加のデータ収集を行う。データの分析を行う。分析結果について論文を追加する。それらの内容をディスカッションする。	事前にデータ入力と分析し結果を執筆する。分析の適切な処理を確認する。事後はディスカッションの内容について論文に盛り込んでいく。	適宜提示		
4、5	研究論文予備審査提出の準備	10月までに論文を完成し、予備審査書類と副論文を提出できるように準備をする。（掲載が決定している場合は証明書でも可）	博士論文の執筆をおこなう。各種書類の準備を整える。	大学院要覧 適宜提示		
6-9	研究論文の審査提出後の中間発表の準備	11月までに必要な書類を整えて、審査願を提出する。その後、11月から12月に主査1名と副査2名の合計3名が審査を行う。研究の概要を15分程度（主査の指示による）で説明し、1時間程度の質疑に対応する。指摘事項などは筆記しておいき、再提出などの指示があれば、指定された期日までに論文を修正する。論文追加修正し中間発表の準備をする。	審査時の質疑にこたえられるよう、準備をする。市KK差結果を受け、修正が必要な場合は、指定の期日までに修正を行う。その際、質疑やしていき事項に対する等、審査者がわかりやすいよう提示する。不合格になった場合は、次年度の提出に向けて論文の内容を無吟味し、追加・修正する。	大学院要覧 適宜提示		
10	中間発表の直前の準備	11月の中間発表会の準備を行う。	中間発表会の最終準備を行う。	大学院要覧 適宜提示		

11-14	博士論文審査書類を提出し審査を受ける準備	1月に博士論文審査書類を提出し審査を受ける準備ができる。 予備審査に合格すると論文審査(本審査)の提出を行う。本審査は、原則、予備審査と同じ3名の審査者で行われる、審査者からの修正事項、追加事項を15分程度で説明し、1時間程度の質疑に回答する。修正が必要な場合は指定された期日に提出し、再度論文審査を受ける。	質疑に対応できるよう、準備しておく。論文の概要と、予備審査後修正した点を15分程度で説明できるよう準備する。修正後再提出が必要な場合は、指定された期日に提出する(指摘内容と修正箇所が示された表も必要)。再度審査を受ける。不合格になった場合は、次年度の提出までに見直す。	大学院要覧 適宜提示
15	博士論文最終発表(研究家の審査の一環)の準備	2月の博士論文の最終発表の準備を行う。	最終発表の準備を行う。	大学院要覧 適宜提示
	最終論文審査と口頭試験			
<b>教科書・参考文献など</b>				
<b>参考文献</b> *看護研究原理と方法 第2版、ポーリット&ハングレー著、医学書院、(2014)、*バーズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版、Suzan K. Groveら著、ELSEVIER (2015)、適宜提示する。				
<b>最終到達目標</b>			<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博士論文を執筆し、予備審査・本審査をうけることができる。</li> <li>2. 各審査で質疑応答に対応でき、各審査の助言および指摘について、論文を適切に修正し提出できる。</li> <li>3. 中間発表・最終発表で自己の研究の報告ができる。最終的に論文審査に合格ができる。</li> <li>4. 専門領域のオリジナリティのある論文が投稿できる。</li> <li>5. 教育研究者・実践者としての倫理観や倫理的態度を身につけることができる。</li> </ol>			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	
<b>履修判定基準・評価基準</b>				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDD0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD01				研究教育力	○
授業科目名	地域包括高齢者看護学特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	赤松公子					
授業の目的						
<p>本科目は、高齢者看護学における研究動向を踏まえ、高齢者の身体的健康レベルを高めるための介護予防支援および、QOLの向上と尊厳の保持を目標とした先駆的な看護介入、ならびに先進的技術の開発と検証に資する研究的視点を養うことを目的とする。諸外国における保健医療福祉・介護制度の現状と、日本の超高齢・多死社会における課題を分析するとともに、自己が展開する看護実践の場内に内在する課題を整理し、ケアの展開方法論、評価法、管理法等に関する自己の研究課題遂行への示唆を得る。</p>						
授業の概要						
<p>本講義では、高齢者看護学における国内外の研究動向を踏まえ、介護予防、フレイル、QOL、尊厳といった主要概念について理論的整理と批判的検討を行う。日本の超高齢・多死社会における課題を、諸外国の保健医療福祉・介護制度との比較を通して分析し、高齢者ケアの制度的・倫理的特性を考察する。さらに、先駆的な看護介入や先進的技術を題材に、ケアの展開方法論、評価法、管理法を検討し、受講生自身の看護実践に内在する課題を研究課題として深化させる。(オフィスアワー：月曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	オリエンテーション	本講義の目的・進め方 高齢者看護学における研究動向と博士課程に求められる研究的視点	修士課程までの学修と博士課程研究の違いを自分なりに整理する。	適時提示		
2	超高齢・多死社会における高齢者看護の課題構造	人口動態と死亡構造の変化 医療・介護・看護の役割再編	人口動態や死亡構造の変化に関する資料をもとに、高齢者看護が直面する研究課題を整理する。	適時提示		
3	高齢者の身体的健康レベルと介護予防の理論	フレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドローム 介護予防の理論的枠組みと看護の位置づけ	フレイル等の概念を中心に、高齢者の健康観の変化と看護への示唆を論じる。	適時提示		
4	介護予防を目的とした看護介入研究の動向	国内外の介護予防介入研究 研究デザインとアウトカム指標の検討	介護予防研究をレビューし、他職種介入と比較した看護の特徴と課題を整理する。	適時提示		
5	高齢者QOL概念の理論的整理と測定	QOL概念の変遷 高齢者QOL尺度と評価の課題	QOL評価の限界と看護研究への示唆を考察する。	適時提示		
6	尊厳の保持と倫理的課題	高齢者ケアにおける尊厳・自己決定 倫理的ジレンマと研究倫理	自身または既存事例をもとに、高齢者ケアにおける尊厳と倫理的葛藤を整理する。	適時提示		
7	先駆的・革新的な看護介入の理論と実践	Person-centered care、Strength-based approach 等 看護介入の独自性をいかに研究化するか	革新的な看護実践の事例を取り上げ、研究化における課題と工夫を検討する。	適時提示		
8	中間まとめと研究課題の共有	各自の関心領域・実践課題の整理 研究課題設定に向けた討論	これまでの課題を踏まえ、暫定的な研究課題とその背景を明文化する。	適時提示		
9	諸外国の保健医療福祉・介護制度	北欧諸国・欧州を中心に 高齢者ケアの思想と制度設計	諸外国の高齢者ケア制度から得られる示唆を整理する。	適時提示		
10	諸外国の保健医療福祉・介護制度	北米・アジア諸国の動向 日本との比較と示唆	制度比較から見た日本の高齢者看護の課題を整理する。	適時提示		

11	日本の介護・医療制度と高齢者看護の課題	地域包括ケアシステム 看護職に求められる役割変化	制度資料および実践例をもとに、 看護の機能と課題を検討する。	適時提示
12	先進的技術と高齢者看護研究	ICT、AI、ロボット技術等 技術導入に伴う倫理・評価の視点	ICT 等の活用事例を基に、看護研究としての検証課題を論じる。	適時提示
13	ケアの展開方法論と研究デザイン	質的・量的・混合研究法 実践知を研究に昇華する方法	研究課題に対する最適な研究デザインを複数案提示し、比較検討する。	適時提示
14	ケアの評価法・管理法に関する研究	アウトカム評価、プロセス評価 ケアマネジメント・組織管理の視点	アウトカム評価・プロセス評価の視点から、自身の研究課題との関連を整理する。	適時提示
15	総括：自己の研究課題の深化と今後の展望	各自の研究課題発表 博士論文研究への接続	講義内容を統合し、博士論文研究に向けた研究課題と今後の展望をまとめる。	適時提示
16	試験			
教科書・参考文献など				
適時紹介				
最終到達目標			評価方法	
1. 高齢者看護学における国内外の研究動向と理論的枠組みを批判的に理解できる 2. 高齢者の介護予防、QOL、尊厳に関する看護介入を研究的視点から構想できる 3. 諸外国と日本の保健医療福祉・介護制度を比較し、超高齢社会における課題を分析できる 4. 自己の看護実践に内在する課題を研究課題として明確化できる 5. ケアの方法論・評価法・管理法に関する研究デザインを構築できる			課題達成度を以下の方法で評価する 授業への参加・討論への貢献：30% 文献レビュー発表：30% 研究課題レポート（最終）：40%	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDD0102			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD01				研究教育力	○
授業科目名	地域包括高齢者看護学特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	岡 多枝子					
授業の目的						
<p>本科目の目的は、国内外の高齢者看護学領域における学術的知見を基盤として、高齢者の身体的健康の維持・増進を志向した介護予防支援、および QOL の向上と尊厳の保持を中核とする先駆的看護介入ならびに先進的技術の開発・検証に資する研究的視点を体系的に修得することである。さらに、諸外国における保健医療福祉・介護制度の動向と、日本の超高齢・多死社会に内在する構造的課題を比較分析し、学際的観点からその特質を把握する。加えて、自己の看護実践の場に内在する課題を理論的かつ実証的に再構成し、ケア提供の方法論、評価指標、マネジメントに関する検討を通して、研究課題の精緻化と遂行に資する知見を導出する能力を養う。</p>						
授業の概要						
<p>授業の概要は、国内外の高齢者看護学領域における学術的知見を基盤として、高齢者の身体的・精神的・社会的側面を統合的に捉え、介護予防支援や QOL の向上、尊厳の保持を志向した看護実践および研究の在り方を探究する科目である。具体的には、先駆的看護介入や先進的技術に関する文献検討および事例分析を通してその有効性と課題を検討するとともに、諸外国における保健医療福祉・介護制度と日本の超高齢・多死社会における課題を比較分析する。さらに、自己の看護実践の場に内在する課題を学際的観点から再構成し、ケアの展開方法論、評価、マネジメントに関する検討を通して研究課題の明確化と研究的思考の深化を図る。</p> <p>(オフィスアワー：月曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	オリエンテーション	本科目の目的・進め方を理解し国内外の高齢者看護学領域における学術的知見と研究的視点を概観する	事前学修：修士課程までの学修内容と研究的視点の相違を整理する 事後学修：講義内容を踏まえて自己の課題意識を明確化する	適時提示		
2	超高齢・多死社会における課題構造	人口動態および死亡構造の変化を踏まえ高齢者看護における構造的課題を分析する	事前学修：人口動態および死亡構造に関する資料を精読する 事後学修：講義内容を踏まえて高齢者看護の課題構造を再整理する	適時提示		
3	身体的健康と介護予防理論	フレイル・サルコペニア等の概念を基盤に身体的健康と介護予防支援の理論的枠組みを検討する	事前学修：フレイル等の概念に関する文献を精読する 事後学修：講義内容を踏まえて看護実践への示唆を整理する	適時提示		
4	介護予防看護介入研究	国内外の介護予防介入研究を概観し研究デザインおよびアウトカム指標の妥当性を検討する	事前学修：介護予防に関する先行研究をレビューする 事後学修：講義内容を踏まえて看護介入の特徴と課題を整理する	適時提示		
5	QOL の理論と評価	高齢者 QOL 概念の理論的展開と測定方法を検討し評価上の課題を明確化する	事前学修：QOL 概念および評価尺度に関する文献を精読する 事後学修：講義内容を踏まえて研究への応用可能性を検討する	適時提示		
6	尊厳と倫理的課題	高齢者ケアにおける尊厳・自己決定および倫理的課題を理論的・実践的に検討する	事前学修：倫理的課題に関する文献および事例を検討する 事後学修：講義内容を踏まえて尊厳と倫理的葛藤を再整理する	適時提示		
7	先駆的看護介入の探究	Person-centered care および Strength-based approach の理論と実践を踏まえ先駆的看護介入の研究化の可能性を検討する	事前学修：Person-centered care と Strength-based approach に関する文献を精読する 事後学修：講義内容を踏まえて看	適時提示		

			護介入の研究課題を整理する	
8	研究課題の共有と中間整理	これまでの学修内容を踏まえ自己の研究関心と課題を整理し共有する	事前学修：これまでの学修内容を整理する 事後学修：暫定的研究課題として明文化する	適時提示
9	諸外国の制度と高齢者ケア①	欧州諸国を中心とした保健医療福祉・介護制度とケアの思想を分析する	事前学修：欧州諸国の制度に関する資料を精読する 事後学修：講義内容を踏まえて高齢者ケアへの示唆を整理する	適時提示
10	諸外国の制度と高齢者ケア②	北米・アジア諸国の制度動向を踏まえ日本との比較分析を行う	事前学修：北米・アジア諸国の制度に関する資料を精読する 事後学修：講義内容を踏まえて日本との比較から課題を整理する	適時提示
11	日本の制度と看護の役割	地域包括ケアシステムを基盤とした看護の役割と課題を分析する	事前学修：地域包括ケアに関する制度資料と実践例を確認する 事後学修：講義内容を踏まえて看護の役割と課題を整理する	適時提示
12	先進的技術と看護研究	ICT・AI等の導入が高齢者看護に与える影響と研究課題を検討する	事前学修：ICT・AI等の活用事例に関する文献を精読する 事後学修：講義内容を踏まえて研究課題と倫理的視点を整理する	適時提示
13	研究方法論の統合	質的・量的・混合研究法を踏まえ実践知の研究化の方法論を検討する	事前学修：研究方法論に関する文献を精読する 事後学修：講義内容を踏まえて自己の研究課題に適した研究デザインを検討する	適時提示
14	評価・管理に関する研究	ケアの評価法およびマネジメントに関する研究視点を整理する	事前学修：評価法および管理法に関する文献を精読する 事後学修：講義内容を踏まえて研究課題との関連を整理する	適時提示
15	総括と研究課題の深化	講義内容を統合し自己の研究課題を再構成し今後の研究展望を明確化する	事前学修：講義全体を振り返る 事後学修：自己の研究課題を再構成するとともに今後の研究展望を明確化する	適時提示
16	試験			
教科書・参考文献など				
受講生の研究課題や進捗状況に合わせて適時紹介				
最終到達目標			評価方法	
1. 高齢者看護学における国内外の研究動向と理論的枠組みを批判的に理解できる 2. 高齢者の介護予防、QOL、尊厳に関する看護介入を研究的視点から構想できる 3. 諸外国と日本の保健医療福祉・介護制度を比較し、超高齢社会における課題を分析できる 4. 自己の看護実践に内在する課題を研究課題として明確化できる 5. ケアの方法論・評価法・管理法に関する研究デザインを構築できる			課題達成度を以下の方法で評価する 授業への参加・討論への貢献：30% 文献レビュー発表：30% 研究課題レポート（最終）：40%	
履修判定基準・評価基準				

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDD0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD02				研究教育力	○
授業科目名	地域包括高齢者看護学 特別演習D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	赤松公子					
授業の目的						
<p>本科目は、高齢者保健医療福祉・介護分野における先進的な介入方法について、諸外国および日本の現状を踏まえ、新たな技術を取り入れた取り組みを検討することを通して、高齢者の QOL 向上に資する質の高い看護実践を探究することを目的とする。高齢者の日常生活を支援する新たな取り組みや技術開発について、研究的視点からケアプログラムを検討するとともに、ケア関連学会への参加等を通して得られた知見をもとに、多角的な視点から自己の臨床現場における課題解決および自己の研究課題の明確化への示唆を得る。</p>						
授業の概要						
<p>授業では、フィールドワークを中心に、高齢者の日常生活を支援する実践現場における取り組みや技術活用の実際を多角的に分析する。あわせて、ケア関連学会への参加等を通じて得られた最新の知見を批判的に検討し、自己の臨床現場に内在する課題の構造化を図る。これらの学修を通して、質の高い高齢者看護実践とは何かを問い直し、博士論文研究につながる自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	刈エーション	科目の位置づけと到達イメージ フィールドワークの目的・倫理的 配慮について		これまでの臨床・研究経験を振り返り、「質の高い高齢者看護実践」とは何かについて自身の暫定的な考えを整理する。	適時提示	
2	高齢者 QOL 概念と 看護実践	QOL・尊厳・生活の質の理論的整理		高齢者 QOL に関する主要文献を精読し、QOL 概念の特徴と看護実践との関連を整理する。	適時提示	
3	先進的介入・技術 の研究動向	ICT・AI・支援技術の国内外動向		先進的介入や技術を活用した高齢者ケアに関する国内外の研究を調査し、研究動向を把握する。	適時提示	
4	諸外国と日本の 高齢者保健医療 福祉・介護制度	制度と実践の関係性の整理		諸外国および日本の高齢者保健医療福祉・介護制度について資料を収集し、制度の特徴と看護実践への影響を整理する。	適時提示	
5	研究的視点から みたケアプロ グラム	介入・評価・実装の考え方		ケアプログラムに関する研究論文を読み、介入構造・評価方法の観点から要点をまとめる。	適時提示	
6	フィールド設定 と研究倫理	対象・場・方法の整理 倫理的配慮とデータ管理		自身が想定するフィールドにおける研究倫理上の配慮点を整理し、想定される課題を書き出す。	適時提示	
7	観察・インタビ ュー技法	フィールドで「何を見るか／聴く か」		観察法・インタビュー法に関する方法論文献を読み、フィールドで収集可能なデータを検討する。	適時提示	
8	個別研究関心の 明確化	暫定的研究課題・分析視点の共有		これまでの事前学習を踏まえ、暫定的な研究関心・問いを文章化する。	適時提示	
9 ～	フィールドワー ク	高齢者の日常生活場面の観察 ・生活行動と環境との関係		フィールドの概要（対象・場・ケアの特徴）を事前に把握し、観察	適時提示	

18		・支援の工夫と課題 看護職・多職種へのインタビュー ・臨床判断と専門性 ・チームケアと役割分担 高齢者本人・家族の視点 ・QOL・満足感・尊厳の語り ・ケアへの期待と課題	の視点を整理する。	
19 ～ 23	分析・構造化	フィールドデータの整理 ケアプログラム構造の可視化 QOL向上に寄与する要因分析 自己の臨床現場への適用可能性	これまでのフィールドワークを振り返り、重要な気づきと新たに生じた問いをまとめる。	適時提示
24 ～ 27	外部地検との統合	ケア関連学会・研究会で得た知見の共有 諸外国の実践・研究との比較検討 介入の課題と倫理的検討	参加予定または参加した学会・研究会のテーマを確認し、注目する視点を整理する。 諸外国の先進的高齢者ケア事例に関する文献を読み、日本との比較視点を整理する。	適時提示
28 ～ 29	統合・研究課題の確定	研究デザインの検討 博士論文研究への接続	博士論文研究への接続を文章化する。	適時提示
30	総括	質の高い高齢者看護実践とは何か 自己の研究課題の最終確認	本科目全体を振り返り、研究者としての視点の変化と今後の課題をまとめる。	適時提示
31	試験			
教科書・参考文献など				
適宜提示				
最終到達目標			評価方法	
1. 高齢者保健医療福祉・介護分野における先進的介入方法および新たな技術の国内外の動向を、研究的視点から批判的に分析できる。 2. フィールドワークを通して、高齢者の日常生活を支える看護実践の実態とその質を多角的に捉え、QOL向上に寄与する要因を説明できる。 3. 観察・インタビュー等により得られた実践知を、理論および既存研究と関連づけて構造化できる。 4. 自己の臨床現場に内在する課題を明確化し、先進的介入や技術を含む看護実践の視点から研究課題として設定できる。 5. 博士論文研究に接続可能な研究課題を明示できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 最終課題レポート(40%)・事前学習課題およびフィールドワーク記録(40%)・授業内発表・討論への参加状況(20%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDD0202			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD02				研究教育力	○
授業科目名	地域包括高齢者看護学 特別演習D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	岡多枝子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目の目的は、高齢者保健医療福祉・介護分野における先進的介入の国際的潮流および国内の実践動向を基盤として、新規技術の導入を含む革新的アプローチを理論的・実証的に検討し、高齢者の QOL 向上に資する高度で質の高い看護実践を探究する能力を涵養することである。さらに、高齢者の日常生活を支援する新たな取り組みや技術開発について、研究的視座からケアプログラムの構築と評価の枠組みを検討するとともに、関連学会への参加等を通して得られる学術的知見を統合し、多角的観点から自己の臨床現場に内在する課題の解決および研究課題の精緻化に資する示唆を導出する能力を養う。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>授業の概要は、フィールドワークを基盤として、高齢者の日常生活を支援する実践現場における取り組みおよび技術活用の実際を多角的かつ体系的に分析することを主眼とする。あわせて、ケア関連学会への参加等を通して得られる最新の学術的知見を批判的に検討し、理論と実践の往還的視点から自己の臨床現場に内在する課題の構造化を図る。さらに、これらの学修過程を通して、高度で質の高い高齢者看護実践の在り方を再考し、博士論文研究へと接続する自己の研究課題の明確化と精緻化を目指す。</p> <p>(オフィスアワー：月曜日 12：20-13：10)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1 ～ 6	フィールドワークによる実践現場の分析と課題抽出	フィールドワークを通して高齢者の日常生活を支援する実践現場における取り組みおよび技術活用の実際を多角的に分析し課題を抽出する	事前学修：フィールドワーク対象となる実践現場の概要および関連文献を精読し分析視点を整理する 事後学修：フィールドワークで得られた知見を整理し課題を明確化するとともに次の分析課題を抽出する	適時提示		
7 ～ 12	先進的介入および技術活用の検討	先進的看護介入および ICT・AI 等の技術活用に関する文献検討と事例分析を行い有効性と課題を検討する	事前学修：先進的看護介入および ICT・AI 等の技術活用に関する文献を精読し論点を整理する 事後学修：講義内容を踏まえて介入の有効性と課題を再検討し自己の研究課題との関連を整理する	適時提示		
13 ～ 18	学会参加による最新知見の批判的検討	ケア関連学会への参加および発表内容の検討を通して最新の学術的知見を批判的に分析する	事前学修：参加予定学会のテーマおよび関連研究を確認し検討視点を整理する 事後学修：学会で得た知見を整理し批判的に検討するとともに研究課題への示唆を明確化する	適時提示		
19	臨床課題の構造化と研究課題の精緻化	自己の臨床現場に内在する課題を理論と実践の往還的視点から構造化し研究課題の精緻化を図	事前学修：自己の臨床現場における課題を整理し関連理論および文献を精読する	適時提示		

～ 24		る	事後学修：講義および討議内容を踏まえて課題構造を再構成し研究課題の精緻化を図る	
25 ～ 30	研究成果の統合と博士論文への展開	これらの学修成果を統合し研究的視点から高齢者看護実践の在り方を再考するとともに博士論文研究への展開を検討する	事前学修：これまでの学修内容および資料を整理し研究の方向性を再確認する 事後学修：学修成果を統合し博士論文研究に向けた課題と展望を明確化する	適時提示
31	試験			
教科書・参考文献など				
受講生の研究課題や進捗状況に応じて適宜提示				
最終到達目標			評価方法	
1. 高齢者保健医療福祉・介護分野における先進的介入方法および新たな技術の国内外の動向を、研究的視点から批判的に分析できる。 2. フィールドワークを通して、高齢者の日常生活を支える看護実践の実態とその質を多角的に捉え、QOL 向上に寄与する要因を説明できる。 3. 観察・インタビュー等により得られた実践知を、理論および既存研究と関連づけて構造化できる。 4. 自己の臨床現場に内在する課題を明確化し、先進的介入や技術を含む看護実践の視点から研究課題として設定できる。 5. 博士論文研究に接続可能な研究課題を明示できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 最終課題レポート(40%)・事前学習課題およびフィールドワーク記録(40%)・授業内発表・討論への参加状況(20%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDD0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域				研究教育力	○
授業科目名	地域包括精神看護学特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	別宮直子					
<b>授業の目的</b>						
本研究の目的は、現代の社会および看護学や精神看護学研究の動向を踏まえ、精神保健看護の科学的発展につながる看護介入・介入方法や技術開発、理論構築に向けた研究能力思考の向上を目指す。						
<b>授業の概要</b>						
<p>本科目では、諸外国と我が国の看護学および精神保健看護学の比較を通し、わが国の抱える精神医療や精神保健看護が抱える課題の分析を行う。そこには、日本独自の文化的背景や行政政策といったマクロの視点、人間のもつ集団心理から個々の心理社会的側面といったミクロの視点が含まれる。その上で、課題の明確化および課題解決に向けた概念化を図り、研究遂行への研究思考と示唆を得る。</p> <p>講義の具体的内容として、地域で生活する当事者の方とその家族への看護介入、家族の高齢化に伴う問題とその支援、精神疾患の早期発見・早期治療の難しさ、日本の精神科病床数の多さや身体抑制件数の多さといった精神科医療が抱える問題、精神科医療の場で繰り返される人権侵害への発生メカニズムと防止についての研究等を先行文献を用い、諸外国と我が国で比較し様々な角度から検証する。</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 12:00-13:30)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	授業オリエンテーション	15回に渡る授業の構成と取り扱うテーマや課題を決定していく。		事前：本科目で取り扱いたいテーマを考えておく。 事後：課題テーマについて、文献検索を行う。		
2～4	地域生活に向けた課題	日本と諸外国の比較を扱った文献を抄読し、文化的あるいは行政政策の相違点から現状を把握する。例えば地域移行の先進国となったイタリアなど		事前：文献検索により、課題テーマの絞り込みを行う。 事後：比較することで捉えられた内容の整理を行う。		
5～6	地域生活に向けた課題の構造化	諸外国との比較を通し、日本の課題・問題の構造化を図り、発表を行う。		事前：内容の整理から、独自で考えた課題・問題の構造化を行う。 事後：授業内容から構造化の修正を行う。		
7～11	精神科医療が抱える倫理的問題	日本の精神科医療が抱える倫理的問題を事例検証や現在までの先行研究を通し、集団心理や個々の心理社会的側面から分析を行う。 ケース1 ケース2 ケース3		事前：倫理的問題について、ケースごとでその背景、事情等を含め文献を検索、取り寄せる。 事後：各ケースの検証から人権や倫理問題に対する分析と社会心理的要因との関連を整理しておく。		
12～15	精神科医療が抱える倫理的問題（諸外国における取組）	英語文献を用い、諸外国における精神科医療における倫理的課題に対する取り組みをクリティークし、わが国との比較を行う。		事前：日本のケースを踏まえた上で、諸外国の文献や書籍をクリティークする。 事後：授業により、比較検討内容を整理する。		

教科書・参考文献など	
<b>参考文献</b> 精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本 単行本 - 2009/10/7 大熊 一夫 バザーリア講演録 自由こそ治療だ!——イタリア精神保健ことはじめ 単行本 (ソフトカバー) - 2017/10/7 フランコ・バザーリア (著), 大熊 一夫 (翻訳), 大内 紀彦 (翻訳), 鈴木 鉄忠 (翻訳), 梶原 徹 (翻訳) 精神病院のない社会をめざして バザーリア伝 単行本 (ソフトカバー) - 2016/9/14 ミケーレ・ザネッティ (著), フランチェスコ・パルメジャーニ (著), 鈴木 鉄忠 (翻訳), 大内 紀彦 (翻訳) 精神疾患と障害差別禁止法 雇用・労働分野における日米法比較研究 単行本 - 2015/12/25 所 浩代 (著) 旬報社 (2015/12/25)	
最終到達目標	評価方法
(1) 精神科医療や看護が直面している諸課題を明らかにすることができる。 (2) 諸課題・問題を諸外国との比較を行うことで、顕在化されていない要因や構造を理解できる。 (3) 取り扱った課題に対し、様々な角度から科学的・論理的分析を行うことができる。	課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(80%)・プレゼンテーション(20%)
履修判定基準・評価基準	
<b>履修判定基準：</b> <b>評価基準：</b> 評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EDD0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域				研究教育力	○
授業科目名	地域包括精神看護学特別演習D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	別宮直子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目の目的は、地域包括精神看護学特論Dを踏まえ、精神保健看護の科学的発展につながる看護介入、介入方法や技術開発、理論構築に向けた研究遂行能力の修得を図る。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本科目は、諸外国と我が国の看護学、精神保健看護学の比較および探求を行い、探求による分析および議論を通し、グローバルな視点、さらに新たな介入方法や技術開発、理論構築に向けた独創的な研究課題の絞り込みを学修する。さらに科学的論理的な研究視点および研究プロトコル作成に対する質向上を図る。</p> <p>講義の具体的内容として、地域包括精神看護学特論Dで取り上げた課題に対し、現状や課題の分析および検証だけでなく、介入方法の在り方や支援開発、看護介入方法を見据えた諸外国と我が国の比較を様々な角度から分析し討議する。海外文献も含め先行研究の分析および議論を繰り返し行うことで、調査や予備研究、介入方法や技術開発、理論構築に向けた研究プロトコル作成の方法を習得する。また、分析・討議を通し、ダイバーシティやインクルージョンといった現代社会における共創を見据えた精神看護学研究のあり方を探求する。</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 12：00-13：30)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1.・2	科目オリエンテーション	30回に渡る授業の構成と取り扱うテーマや課題を決定していく。	事前：地域包括精神看護学特論Dの内容を整理しておく。 事後：授業を踏まえ整理した内容から精神保健看護に関する課題テーマを十分に理解しておく。			
3~12	課題に対する介入方法の在り方について	地域包括精神看護学特論Dで取り上げた課題・問題に対し、構造化し整理した内容に対し、看護介入や支援の側面からその方法を検討する。 看護介入や支援に対する先行文献の整理を行う。	事前：課題に対する看護や支援に関する文献検索を行う。 事後：先行研究における看護介入方法の限界や問題的を整理する。			
13~20	課題に対する海外文献のクリティーク	課題に対する看護介入や支援に関する海外文献を読みクリティークおよび、検討を行う。	事前：英語の文献検索を行う。 事後：英語文献のクリティークを通し、グローバルな視点からの分析を行って行く。			
21~30	課題テーマの概念化	これまでの分析から課題テーマの構造化を行う。	事前：課題テーマに関する先行文献を整理しておく。			
<b>教科書・参考文献など</b>						
参考文献：よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版、日本看護協会出版会						
参考文献：看護研究 原理と方法第2版、医学書院						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
<p>(1) 課題に対する看護介入や支援方法の在り方を検討することができる。</p> <p>(2) 精神保健看護に関する国内外の文献をクリティークすることができる。</p>				<p>課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(80%)・プレゼンテーション(20%)</p>		

(3) 課題テーマに関する分析から概念化を試み、概念図を作成することができる。	
<b>履修判定基準・評価基準</b>	
<p>履修判定基準：</p> <p>評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )</p>	

授業コード	EDD0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD07				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究 I D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1 年次/通年	単位数	2			
担当教員	岡 多枝子					
授業の目的						
<p>本科目の目的は、保健医療福祉の実践現場における看護の質向上を志向し、ケア実践に根ざした臨床志向型研究を自立的かつ体系的に計画・遂行する能力を涵養することである。とりわけ、臨床実践と教育の往還的視点を基盤として研究課題の理論的精緻化を図り、ケアプログラムの有効性検証を含む実証的研究の設計および方法論の妥当性を検討する。さらに、研究倫理の原則に基づく倫理審査申請書の作成過程を通して、学術的厳密性と実践的妥当性を兼ね備えた研究遂行能力の深化を図る。</p>						
授業の概要						
<p>本授業の概要は、受講生が自らの研究テーマを明確化し、看護学における理論的・実践的意義を踏まえた研究計画を体系的に立案することである。文献レビューを通じて研究課題を整理し、最新の研究動向を把握することを基盤として、研究課題の焦点化、研究目的の明確化、研究デザインおよび研究方法の選定、倫理的配慮の検討を段階的かつ批判的に進める。最終的には、研究計画書および倫理審査申請書を作成し、学術的厳密性と実践的妥当性を兼ね備えた研究実施に向けた準備を完了させる。</p> <p>(オフィスアワー：月曜日 12：20-13：10)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1 ～ 3	研究課題の焦点化と理論的背景の整理	文献レビューを通じて国内外の高齢者看護・保健医療福祉分野の先行研究を整理し、研究課題の理論的背景を明確化する	事前学修：国内外の高齢者看護・保健医療福祉分野の先行研究および文献を精読し、研究課題の理論的背景を整理する 事後学修：講義内容を踏まえて研究課題焦点化と理論的整理を行う	適時提示		
4 ～ 6	実践事例の収集・分析とケアプログラムの検討	自己の研究テーマに関連する実践事例を収集・分析し、ケアプログラムの構造や介入方法の有効性を多角的に検討する	事前学修：自己の研究テーマに関連する実践事例やデータを収集・確認する 事後学修：収集した事例を分析し、ケアプログラムや介入方法の有効性と課題を整理する	適時提示		
7 ～ 9	研究目的に基づくデザイン選定と方法論の具体化	研究目的に沿った研究デザインの選定と研究方法の具体化を行い、量的・質的アプローチの適用可能性を評価する	事前学修：研究デザインおよび方法論に関する文献を精読し、量的・質的手法の適用可能性を確認する 事後学修：講義内容を踏まえて研究デザインの選定と方法論の具体化を行う	適時提示		
10 ～ 12	研究倫理の検討と倫理審査準備	研究倫理の原則に基づき、対象者保護や倫理審査に必要な手続きを検討・整理する	事前学修：研究倫理に関する文献・ガイドラインを確認し、対象者保護や倫理審査手続きの基礎知識を整理する 事後学修：倫理的配慮の観点から研究計画を再検討し、倫理審査申請書作成の準備を行う	適時提示		
13 ～ 15	研究計画書および倫理審査申請書の作成と計画整合性の検証	研究計画書および倫理審査申請書の作成を通じて、計画の整合性・実現可能性・学術的妥当性を検証する	事前学修：研究計画書および倫理審査申請書の作成例やテンプレートを確認する 事後学修：作成した計画書と申	適時提示		

		請書の整合性・実現可能性・学術的妥当性を検証する	
教科書・参考文献など			
受講生の研究課題や進捗状況に応じて適時提示する。			
最終到達目標		評価方法	
1. 看護学における研究課題を自立的に設定し、理論的・実践的意義を説明できる。 2. 研究目的に即した研究デザインおよび研究方法を選定できる。 3. 研究倫理を十分に考慮した研究計画書および倫理審査申請書の準備ができる。		課題達成度を以下の方法で評価する 研究計画書：70% 倫理審査申請書：20% プレゼンテーション：10%	
履修判定基準・評価基準			
履修判定基準：			
評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。			
A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)			
B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)			
C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)			
D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)			
( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )			

授業コード	EDD0702			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD07				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	赤松公子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、保健医療福祉の場における看護の質向上を目指し、ケア実践に根ざした臨床志向の研究を自立的に計画・遂行する能力を養うことを目的とする。</p> <p>特に、臨床と教育を往還する視点から研究課題を深化させ、ケアプログラムの効果検証を含む実証的研究の計画立案および倫理審査申請を行う力を育成する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本授業では、博士後期課程の学生が自らの研究テーマを明確化し、看護学における理論的・実践的意義を踏まえた研究計画を立案することを目指す。</p> <p>文献レビューを通じた研究課題の整理および最新の研究動向の把握を基盤に、研究課題の焦点化、研究目的の明確化、研究デザインおよび研究方法の選定、倫理的配慮の検討を段階的に進める。</p> <p>最終的には、研究計画書および倫理審査申請書を作成し、研究実施に向けた準備を完了する。</p> <p>(オフィスアワー：月曜日 13：20-14：50)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	研究課題の焦点化	自らが取り組む研究課題について		学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示	
2		既存文献を体系的に検索・検討し、				
3		看護学および保健医療福祉分野における研究的意義を踏まえて研究課題を焦点化する。				
4		研究背景、問題意識、先行研究との関連性を明確にする。				
5	研究デザインの選定	研究目的および焦点を当てる現象を明確にし、量的研究、質的研究、混合研究法等の中から適切な研究デザインを選定する。		学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示	
6		研究の妥当性・信頼性（質的研究における信頼性基準を含む）について検討する。				
7						
8	研究方法の検討	対象者の選定、データ収集方法、データ収集期間、分析方法について具体的に検討する。		学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示	
9		研究の実現可能性および研究倫理の観点から方法の妥当性を検証する。				
10						
11	倫理的配慮の検討	研究対象者の権利擁護を中心に、インフォームド・コンセント、個人情報保護、研究協力の自由意思、研究に伴う利益・不利益への配慮等について検討する。		学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示	
12		倫理審査に耐えうる記述の構成を行う。				
13						
14	研究計画書の作成	中間発表会での発表を想定し、研究背景、目的、方法、倫理的配慮を含む研究計画書を完成させる。		学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示	
15	倫理審査申請書	倫理審査申請書の作成を行い、		学修課題の進行に合わせて、計画	適時提示	

	の準備	研究実施に向けた最終的な準備を整える。	的に進める。	
教科書・参考文献など				
研究テーマおよび進行状況に応じて適時提示する。				
最終到達目標			評価方法	
1. 看護学における研究課題を自立的に設定し、理論的・実践的意義を説明できる。 2. 研究目的に即した研究デザインおよび研究方法を選定できる。 3. 研究倫理を十分に考慮した研究計画書および倫理審査申請書の準備ができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 研究計画書：70% 倫理審査申請書：20% プレゼンテーション：10%	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDD0703			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	別宮直子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と、往還的な作用効果のある研究とにより、ケアプログラムの効果検証を目指し、研究計画を展開するための科目である。文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに関する課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受ける。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>(科目担当者の取り扱うテーマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生理学的指標を用いた対象者のセルフコントロールの開発</li> <li>2. 地域生活を基盤とした精神疾患をもつ対象者とその家族への支援方法の開発</li> <li>3. 精神保健医療の独自構造におけるヒューマンサイエンスの果たす倫理的課題解決に向けた研究など</li> </ol> <p>本科目は、1年次の4月に研究指導教員決定後、文献検討から課題の分析、研究テーマの決定、概念図および研究計画書の作成、その後、11月に研究計画発表を行い、指導を受ける。研究計画書および指導を基に、予備研究の研究計画書を作成し、3月を目途に倫理審査委員会への申請書を提出し、審査を受ける。この一連の流れを行う。</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 12:00-13:30)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	授業スケジュールについて	今後の授業スケジュールを組み立てる	事前：自身の年間スケジュールの把握 事後：関心ある研究テーマの文章化を行う。	大学院要覧 関連文献		
2	文献検討から課題の分析	自身の個別テーマに関する文献検討を行い、課題の分析を行う。	事前および事後：文献検討を繰り返し、関心ある研究テーマに関する課題の分析を行う。	関連文献		
3						
4						
5						
6	研究テーマの決定	文献検討および課題の分析から、自身の研究テーマを決定する。	事前：課題の分析から自身の研究テーマの絞り込みを図る。	関連文献		
7	概念図および研究計画書作成	研究テーマ決定後、研究計画発表会に向け、概念図や研究計画書を作成する。	事前：これまでの文献検討および課題の分析をまとめておく。			
8						
9						
10						
11	研究計画発表準備	11月の研究計画発表に向けて準備を行う。	事前：研究計画書を作成しておく 事後：研究計画発表に向け、練習を重ねる。			
12	研究計画発表	研究計画発表を行う。	事前：指摘される点の洗い出しを行っておく。 事後：指摘された点の整理			
13	研究計画書完成	研究計画発表で指摘を受けた内容を再検討し、研究計画書を完成させる。	事前：研究計画発表で指摘を受けた点を、整理しておく。			
14	倫理申請書の作成	3月の倫理審査委員会への申請に向け、倫理申請書を作成する。	事前：研究計画書を完成させておく。			

15	倫理審査委員会への申請	倫理審査委員会の承認を得るため申請を行う。	事前：倫理審査委員会に倫理申請書を提出する。	
教科書・参考文献など				
最終到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献検討および課題の分析から研究テーマを決定できる。</li> <li>・概念図および研究計画書を作成し、研究計画発表を行うことができる。</li> <li>・研究計画書を完成させることができる。</li> </ul>			<b>評価方法</b> 課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(80%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) ( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )				

授業コード	EDD0801			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD08				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究ⅡD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	2			
担当教員	岡多枝子					
<b>授業の目的</b>						
本科目は、地域包括ケア特別研究ⅡDで作成した研究計画に沿って研究目的を達成する調査を遂行して、新規性と独創性のある研究論文を学術誌に投稿することを目的とする。						
<b>授業の概要</b>						
研究実施に際して、研究倫理に則った研究協力への依頼と同意の確認、妥当性のある研究データの収集、正確で信頼性・信憑性、妥当性のある手法を用いた分析、整合性と一貫性のある結果と考察が展開された原著論文を作成し、新規性と独創性、社会的意義と研究的意義のある研究論文を学術誌に投稿する。 (オフィスアワー：月曜日 13：20-14：50)						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	オリエンテーション：研究活動推進、調査実施	研究計画に基づく研究データの収集。研究倫理原則に則った丁寧で良質のデータが収集できる研究計画の立案。	研究倫理申請書に則り、各種の書類を準備する。調査を実施する。データを解析・分析する。	各種のデータ解析法関連の著書		
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9	中間発表：データ解析結果と考察	1段階の調査を集計・分析して果を出す。考察・結論までを発表する。中間発表の資料を作成し、プレゼンテーションする。質疑に適切にする。	データの分析を行う。結果を出し、考察し、結論を導き、発表する準備をする。質疑の内容を加味し、論文に活かす。次の調査の準備を始める。	中間発表資料		
10						
11						
12	学会参加	学会に参加して知見を広げる。	中間発表でのリフレクションをもとに研究課題に見合う学会に参加して知見を広げる。	論文		
13						
14						
15	中間まとめ	研究の1・2段階をまとめる。	第1・2段階から3段階の調査へ準備を始める。	論文		
16						
<b>教科書・参考文献など</b>						
川喜田二郎：KJ法—渾沌をして語らしめる，中央公論新社，1986. D.F. ポーリット他：看護研究，原理と方法，医学書院，2010. 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版：研究手法別のチェックシートで学ぶ，日本看護協会出版会，2020. 3, 520円 その他、研究方法に沿った参考書						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
自己の研究計画に追って調査を実施し、倫理的配慮を徹底して実施したうえでデータの収集ができる。 収集したデータを集計、分析し、一つの研究として結果と結論を導き出し、中間発表会で報告できる。 学会での口頭発表、および副論文の投稿ができ査読で承認される。				課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(90%)・プレゼンテーション(10%)		

履修判定基準・評価基準

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDD0802			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD08				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究ⅡD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	2			
担当教員	赤松公子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、「地域包括ケア特別研究ⅡD (D1)」において作成した研究計画および倫理審査承認に基づき、研究目的の達成に向けて調査を遂行し、看護学における新規性・独創性を有する研究成果を創出することを目的とする。さらに、得られた研究成果を原著論文としてまとめ、学術誌への投稿を通して学術的発信を行う能力を養う。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本授業では、D1 で立案した研究計画に沿って研究を実施する。研究協力依頼および同意取得を含む倫理的配慮を徹底した上で、妥当性のある研究データを収集し、正確性、信頼性、信憑性および妥当性を確保した分析を行う。その結果を基に、整合性と一貫性のある結果および考察を展開した原著論文を作成し、学会発表および学術誌への投稿を行うことで、研究者としての自立性を高める。</p> <p>(オフィスアワー：月曜日 13：20-14：50)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1～5	データ収集	研究計画書および倫理審査承認内容に基づき、研究対象者への依頼、説明および同意取得を行い、倫理的配慮を十分に行いながら第1段階の調査を実施する		各回の学修課題に沿って、研究の準備、データ整理、分析、論文執筆を計画的に行う。	適時提示	
6～10	データ入力および分析	収集したデータを研究計画に沿って整理し、適切な分析手法を用いて分析を行う。分析過程の妥当性および結果の信頼性について検討する。				
11	結果の整理	研究目的に即した方法で分析結果を整理し、結果として提示すべき内容を明確化する。				
12 13	考察の作成	先行研究との比較を踏まえ、論理性・整合性・一貫性を維持しながら考察を記述する。研究の意義および限界についても明確にする。				
14	学内発表	研究成果をまとめた中間発表資料を作成し、学内発表会において研究内容を発表する。				
15	まとめ	学会発表および投稿にむけたクリティークを行う。				
<b>教科書・参考文献など</b>						
研究テーマおよび研究の進行状況に応じて適時提示する。						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
1. 研究倫理審査を受ける。 2. 承認された研究計画に基づき、研究を倫理的に遂行できる。 3. 妥当性・信頼性を確保したデータ分析を行い、結果を適切に整理できる。						
<b>履修判定基準・評価基準</b>						

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDD0803			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究ⅡD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	2			
担当教員	別宮直子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、地域包括ケア特別研究ⅡDで作成した研究計画に沿って、研究目的を達成するように調査を遂行することを目的とする。研究実施の依頼と同意の確認、妥当性のある研究データの収集、正確で信頼性・信憑性、妥当性のある手法を用いた分析、整合性と一貫性のある結果と考察が展開された原著論文を作成し、新規性、独創性のある研究論文を学術誌に投稿する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>(科目担当者の取り扱うテーマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生理学的指標を用いた対象者のセルフコントロールの開発</li> <li>2. 地域生活を基盤とした精神疾患をもつ対象者とその家族への支援方法の開発</li> </ol> <p>精神保健医療の独自構造におけるヒューマンサイエンスの果たす倫理的課題解決に向けた研究など</p> <p>本科目は、1年次の3月に倫理審査委員会への申請書を提出し、審査を受けた後に修正を行い、倫理審査委員会の承認を得る。承認を得た予備研究を前期期間にデータ収集および分析を行う。その後、9月には中間Ⅰ発表会や論文投稿に向けた論文作成を行い、11月には中間Ⅰ発表会を行い、その意見を踏まえ、本研究の研究計画書の作成修正を行い、随時本研究の倫理審査申請を行う。</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 12：30-13：30)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	倫理審査委員会への申請	予備研究の倫理審査委員会への申請を行う。	事前：倫理審査委員会に倫理申請書を提出する。			
2 ～ 5	研究計画書の修正および再申請	倫理審査結果を踏まえた研究計画書の修正を行い、再申請を行う。	事前：倫理審査結果を把握する。 事後：倫理審査結果を踏まえた修正およびコメントを行い、再提出を行う。	関連文献		
6～ 10	研究の実践	倫理審査委員会の承認を得た後、研究計画書に基づき、研究を行い、データの収集を進める。	事前：研究を行うための、事前準備を十分に行う。 事後：データの収集および保管を徹底する。			
11 ～ 15	データ分析	収集したデータの分析を行う。	事前：収集したデータの入力および、統計解析の手法を理解しておく。 事後：集計や統計解析を行い、データの分析を進める。			
<b>教科書・参考文献など</b>						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予備研究の倫理審査委員会の承認を得るため、申請書を提出することができる。</li> <li>・再申請を繰り返し、予備研究の倫理審査委員会の承認を得ることができる。</li> <li>・研究計画書を基に、研究を行い収集したデータの分析を行うことがで</li> </ul>				<p>課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(80%)・プレゼンテーション(20%)</p>		

きる。 ・論文を作成し、中間 I 発表会を行うことができる。	
履修判定基準・評価基準	
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) ( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )	

授業コード	EDD0901			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD09				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究ⅢD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	3年次/通年	単位数	2			
担当教員	岡多枝子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目の目的は、「地域包括ケア特別研究ⅠD」「地域包括ケア特別研究ⅡD」で2年間にわたって究明し蓄積してきた調査・研究成果を研究として纏めることである。研究題目や目的を踏まえた信頼性と妥当性を深く考察して、臨床現場で実践可能な社会的・研究的意義がある論文としてまとめる。</p> <p>(オフィスアワー：月曜日 12：20～13：20)</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>(科目担当者の取り扱うテーマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括ケアにおける対象者・家族のセルケアと健康寿命延伸の可能性の検討。</li> <li>2. 身体的・精神的・社会的健康の回復・維持・向上に向けた地域生活に困難がある対象者とその家族への支援方法の質的（KJ法）及び量的（統計解析）研究によるトライアングレーション。</li> <li>3. 保健医療福祉教育などの専門職連携による地域生活の持続可能性に向けた課題解決に関する研究。</li> </ol> <p>本科目では、2年次に本研究に関する倫理審査委員会の倫理審査と修正、承認を得ている。3年次4月からデータ収集と分析を行い、結果・考察・結論の検討を進めて中間発表会に向けた準備を行う。11月に中間発表を行い、発表会での指導を踏まえて、研究をまとめる。</p> <p>(オフィスアワー：月 12：30-13：30)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1～2	研究計画書修正と統合研究着手	倫理審査結果を踏まえた研究の第1・第2段階の結果に基づく第3段階の検討と、研究計画書の修正、統合研究に着手する。	事前学修：研究計画書検討。 事後学修：修正した研究計画書検討・データ収集と分析・考察を踏まえた副論文の作成。	関連文献	随時提示する。	
3～4	データ収集・分析	データ収集と統計解析及びKJ法による質的研究を進める。	事前学修：統合研究の準備。 事後学修：KJ法による質的研究をまとめる。			
5～6	結果の検討	データ収集・分析に基づく結果の精査を行う。	事前学修：結果の明示。 事後学修：結果のまとめ。			
7～8	考察と結論	結果を踏まえた考察を行い、結論を導き出す。	事前学修：考察に着手。 事後学修：結論の完成。			
9～10	中間Ⅱ発表会準備	中間発表会に向けた研究成果の報告資料作成準備、発表会のリハーサル準備を行う。	事前学修：発表会の資料作成。 事後学修：資料完成。			
11～13	中間発表会での研究成果の報告作成とリハーサル	研究成果の報告作成とリハーサルを受けた研究成果の修正を行う。	事前学修：資料提出。 事後学修：発表内容確定。			
14	中間発表会	中間発表会で発表を行う。	事前学修：リハーサルを踏まえた時間管理と想定問答。 事後学修：発表会省察。			
15	中間発表会を踏まえた研究のまとめ	中間発表会での指導・助言を受けて研究のまとめを行う。	事前学修：発表会まとめ。 事後学修：論文をまとめる。			
<b>教科書・参考文献など</b>						

随時提示する。	
最終到達目標	評価方法
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理審査委員会の承認を得た研究計画書を基に調査研究を遂行して、副論文の作成・学術誌投稿や、学会発表を行うことができる。</li> <li>2. 博士論文を作成して中間Ⅱ発表会において発表することができる。</li> <li>3. 予備審査・本審査・最終試験を受けることができる。</li> <li>4. 博士論文最終発表会で発表して博士論文を提出することができる。</li> </ol>	課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(100%)
履修判定基準・評価基準	
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</li> <li>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</li> <li>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</li> <li>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</li> </ul> ( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )	

授業コード	EDD0902			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD09				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究ⅢD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	3年次/通年	単位数	2			
担当教員	赤松公子					
<b>授業の目的</b>						
<p>本科目は、特別研究ⅠDおよびⅡDにおいて遂行してきた研究成果を統合し、博士論文として完成させることを目的とする。複数の研究成果を総合的に位置づけ、看護学における学術的意義および臨床・教育への示唆を明確にした博士論文を執筆し、予備審査および本審査に耐えうる研究として完成させる能力を養う。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本授業では、これまでに実施した各研究において得られた信頼性および妥当性のある研究成果を基盤として、博士論文全体の構成を整理し、統合的考察を行う。個々の研究結果を単に集積するのではなく、総合的な視点から論旨を再構築し、臨床実践および看護学研究への示唆を明確にした論文として完成させる。</p> <p>博士論文には、新規性・独創性を有し、実践への展開可能性および看護学の各領域に対する発展的貢献が示されていることを重視する。(オフィスアワー：月曜日 13：20-14：50)</p>						
<b>授業の計画及び展開方法</b>						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1～5	データ収集	研究計画書および倫理審査承認内容に基づき、倫理的配慮を十分に行いながら最終段階のデータ収集を行う。博士論文全体の完成を見据え、データの充足性を確認する。	各回の学修課題に沿って、博士論文執筆、分析の精緻化、発表準備を計画的に行う。	適時提示		
6～10	データ整理および分析	収集したデータを研究計画に沿って整理し、博士論文としての一貫性を意識しながら分析を行う。結果の妥当性および解釈の整合性について検討する。				
11	結果の整理	博士論文の構成を踏まえ、研究目的に即した形で結果を整理・統合する。				
12 13	考察の作成	先行研究との比較を行いながら、論理性・整合性・一貫性を維持した総合的考察を記述する。研究の意義、限界、今後の課題および臨床・研究への示唆を明確にする。				
14	中間発表会	研究全体の構成および主要な成果について発表する。				
15	まとめ	中間発表会での議論をもとに資料の修正を行う。				
<b>教科書・参考文献など</b>						
研究テーマおよび博士論文の進行状況に応じて適時提示する。						
<b>最終到達目標</b>				<b>評価方法</b>		
博士論文の完成に向けて、自身の研究を理論的・方法的・倫理的観点から批判的に検討し、学術的独創性と看護学的意義を明確化できる。				課題達成度を以下の方法で評価する 博士論文執筆(90%) プレゼンテーション(10%)		
<b>履修判定基準・評価基準</b>						

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )

授業コード	EDD0903			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究ⅢD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	3年次/通年	単位数	2			
担当教員	別宮直子					
授業の目的						
<p>本科目は、地域包括ケア特別研究ⅠD・ⅡDで遂行してきた研究を博士論文として完成させることを目的とする科目である。一つ一つの研究は信頼性と妥当性のある研究結果を導き、いくつかの研究成果をまとめ、総合的考察と臨床と研究へのサジェスションで展開された研究論文は、新規性と独創性があり、実践に展開可能であることを重要視して、論旨を展開する。</p>						
授業の概要						
<p>(科目担当者の取り扱うテーマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生理学的指標を用いた対象者のセルフコントロールの開発</li> <li>2. 地域生活を基盤とした精神疾患をもつ対象者とその家族への支援方法の開発</li> </ol> <p>精神保健医療の独自構造におけるヒューマンサイエンスの果たす倫理的課題解決に向けた研究など</p> <p>本科目は、2年次に本研究に関する倫理審査を受け、その後、修正を行い、倫理審査委員会の承認を得る。承認を得た本研究を前期期間にデータ収集および分析を行う。9月には中間Ⅱ発表会と予備審査に向けた博士論文作成を行い、11月には中間Ⅱ発表会を行い、予備審査申請に向けた論文作成を行う。中間Ⅱ発表会および予備審査の指導を踏まえ、本審査に向けた博士論文作成修正を行い、1月に博士論文提出、本審査を受ける。さらに、2月に博士論文最終審査、最終試験を受ける。合否決定後、博士論文最終発表会を行う。これらの一連の流れを終え、3月博士(看護学)取得となる。</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 12:30-13:30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1～2	中間Ⅰ発表会後の本研究の倫理審査申請書作成	中間Ⅰ発表会での指摘を受け、本研究に向けた研究計画の修正、倫理審査申請を行う。	事前：指摘された箇所を正確に理解しておく。 事後：研究計画書の修正を行い、本研究のための倫理審査申請を行う。			
3～5	本研究における研究計画書の修正	倫理審査結果を踏まえた研究計画書の修正を行う。	事前：倫理審査結果を把握する。 事後：倫理審査結果を踏まえた修正およびコメントを行い、再提出を行う。	関連文献		
6～9	本研究の実践	倫理審査委員会の承認を得た後、研究計画書に基づき、研究を行い、データの収集を進める。	事前：研究を行うための、事前準備を十分に行う。 事後：データの収集および保管を徹底する。			
10～13	データ分析	収集したデータの分析を行う。	事前：収集したデータの入力および、統計解析の手法を理解しておく。 事後：集計や統計解析を行い、データの分析を進める。			
14～15	中間Ⅱ発表会に向けた研究成果の報告作成	データの分析結果を踏まえ、研究成果報告、中間Ⅱ発表会の資料を作成する。	事前：分析結果をまとめる。 事後：発表要領に従った作成を行う。			
教科書・参考文献など						

最終到達目標	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本研究の倫理審査委員会の承認を得ることができる。</li> <li>・研究計画書を基に、研究を行い収集したデータの分析、論文を作成し、中間Ⅱ発表会を行うことができる。</li> <li>・中間Ⅱ発表会后、予備審査に向けた修正および、予備審査申請に向けた論文を作成することができる。</li> </ul>	<p>課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(100%)</p>
<b>履修判定基準・評価基準</b>	
<p>履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</li> <li>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</li> <li>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</li> <li>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</li> </ul> <p>( E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足 )</p>	